



整備作業中にフォークリフトを運転する様子

概要

◆氏名・所在地

外崎 二郎 北海道常呂郡置戸町

◆就農年月

令和6年10月

◆事業内容

雇用就農先（経営面積530ha）で馬鈴薯、甜菜、小麦、大豆、小豆、加工用スイートコーンの栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

教員として中学校に勤めていたとき、課外授業で農業と触れ合う機会があり農業に魅力を感じていた。教員を退職し、以前から気になっていた農業の仕事について調べ始めた。興味は持っていたものの全くの未経験で、農業をしている知人もいなかった。その状況から農業を始めるためにはどうしたらいいかわからず、インターネットで情報を集める中で北海道農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）を知った。

2

相談内容

全くの未経験から就農するにはどのような選択肢があるのか教えてほしい。また、就農にあたってどんなことを学べばよいか、活用できる制度があるかについて具体的なアドバイスがほしい。

3

支援内容

●農業をはじめするための相談対応

【支援センターにて対面相談：令和6年5月】

雇用就農と独立就農など就農方法のイロハを説明し、農業体験の経験がなく全くの白紙状態だったので、「まずは体験して農業が好きかどうか確かめること」を勧め、石狩振興局主催の「いしかり農業体験ツアー」を紹介した。

●「いしかり農業体験ツアー」に参加

直接、農業者と対話し、実際に農業を体験することで「農業に興味がわき楽しかった」との感想で、自治体等担当者との個別相談イベント「北海道新規就農フェア」への参加を勧めた。

●北海道新規就農フェアでの出会い

道内から60市町村が参加した支援センター主催の「北海道新規就農フェア」に参加し、数ブースで相談する。

その中に置戸町があり、町役場の仲介で畑作を中心とした農業法人「勝山グリーンファーム」の担当者から仕事内容や職場環境、農村生活などの説明を受け、この法人に魅力を感じ令和6年9月から1か月間の就業体験をした。

この就業体験での馬鈴薯収穫のやりがい決め手となり、令和6年10月から雇用就農した。



農業体験ツアーにて栽培の説明を受け、収穫作業を体験



北海道新規就農フェアに参加し置戸町のブースで相談

今後の意気込み

雇用就農先の勝山グリーンファームでは、営農や農業経営について一から丁寧に指導していただいています。また機械作業の免許取得など、従業員への手厚いサポート体制があり、学びの多い充実した日々を過ごしています。

置戸町は自然豊かで何より人が温かく、仕事以外でもいろいろな面で支えられています。まだまだ学ぶことがたくさんありますが、少しずつ力をつけて法人や地域に貢献できるようになりたいと考えています。この出会いのきっかけになった「支援センター」のスタッフの方々にも大変お世話になりました。感謝をお伝えしたいと思います。

専属スタッフ所感

一見して好青年、礼儀正しく、人の話をよく聴き、行動力と決断力のある方でした。体験ツアーを勧めると、直に参加したいとの返事があり、就農に対する熱意を感じました。その熱意から積極的にイベントに参加したことで、意中の農業法人と出会い、短期間のうちに雇用就農が決まったと思います。

農業法人からの評価は高く、既にトラクタに乗って第一線で活躍しています。さらにスキルを磨くことで、構成員や独立就農の道も拓けると思います。



合濱俊樹氏

概要

◆氏名・所在地

合濱 俊樹 青森県青森市

◆研修開始年

令和7年2月

◆研修内容

水稲栽培での就農を希望し、青森市内の水稲農家の下で2年間の長期研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

青森市で土木関係の仕事をしていたが、知り合いから青森市内の農家を紹介され、水稲の栽培を手伝ったことがきっかけで、農業に興味を持った。その後、後継者不足や耕作放棄地の増加など地域が抱える現状を目の当たりにし、自身で農業経営を行いたいと考えるようになった。

就農に当たって何から始めれば良いか分からなかったため、青森県農業経営・就農サポートセンター（以下「サポートセンター」という。）へ相談した。

2

相談内容

青森市で独立・自営就農し、本格的に水稲の栽培を行いたい。

しかし、非農家出身で、栽培経験がほとんどないため、研修を受けるなどして、水稲の栽培技術を習得したい。

また、就農後の資金面に不安があることから、支援制度等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●相談対応

就農相談時点では、農地や機械の取得、生活資金面を含む営農計画が構想段階だったため、サポートセンターにて農業を始める上で必要な情報や研修制度の紹介のほか、国等の支援状況について説明を行った。



研修受入先で水稲の作業を行う様子

●関係機関との連携による取組

今後の支援方針について情報共有を図るため、サポートセンターのサテライト窓口である東青地域県民局地域農林水産部農業普及振興室（以下「普及振興室」という。）、市、あおもり就農サポートセンター（管内の市町村が農協に委託し就農支援をしている組織）を交えて、相談者と打合せを行った。

●研修受入先の決定

関係機関と打合せを重ね、栽培品目と就農地が定まったことから、普及振興室を通じて、研修受入先を検討した。

その結果、相談者が当初から水稲の手伝いをしに行っていた青森市内の農家を研修受入先として選定することになった。

その後、普及振興室及びサポートセンターで研修計画の作成支援を行い、令和7年2月から2年間、研修を行うこととなった。

専属スタッフ所感

当初は非農家出身ということもあり、漠然とした相談内容でしたが、打合せを重ねるごとに、就農ビジョンが明確になり、目指す方向性が固まってきました。

研修受入先は、相談者に対し、技術指導だけでなく、地域の農地を紹介したり、機械や施設等を貸す意向を示すなど、就農後のサポートも期待されます。

今後も、研修受入先や関係機関である普及振興室、市、あおもり就農サポートセンターと連携しながら、研修状況の確認や就農に向けた支援を行っていきます。

今後の意気込み

サポートセンターへの就農相談を契機に、就農に向けた一歩を踏み出す事ができました。

今後も研修先や関係機関の方に相談しながら、青森市で農業を始められるよう、研修に一生懸命取り組み、知識や技術の習得に励みたいと思います。



新山氏

概要

- ◆氏名・所在地
新山 麗佳 岩手県野田村
- ◆就農年
令和3年4月
- ◆経営規模
ブロッコリー 3 ha、きゅうり0.25ha、ねぎ0.3ha
- ◆従業員数
家族労働 1名、パート・アルバイト6名
- ◆事業内容
ブロッコリー・きゅうり等の野菜栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

新山氏は、子どもの頃の家庭菜園が楽しくて、将来はキャベツ農家になりたいと思っていた。結婚を機に東京から夫の地元である野田村に移住。夫の実家が水稻農家だったため、農業が身近になった。

転機になったのは、夫がブロッコリーの栽培体験会に参加したこと。農作業の手伝いをしているうちに、野菜栽培の虜に。「これは私の仕事だ」と直感。やってみようと思い、まずは岩手県農業経営・就農支援センター（旧農農業経営相談所）のサテライト窓口である普及指導センターに就農相談した。

2 相談内容

水稻＋野菜での就農を考えているが、**お勧めの品目及び借りられる農地について教えて欲しい。**

国の農業次世代人材投資資金（経営開始型）を活用したいので、**就農計画作成を支援してほしい。**

機械の導入に当たり、**利用可能な補助事業について教えて欲しい。**

3 支援内容

●栽培品目の決定

管内は雨よけほうれんそう・菌床しいたけの産地であるが、**ハウス導入経費が大きくなることから露地品目を検討。**

管内で生産が増加しているブロッコリーにきゅうりを組み合わせる栽培体系とすることに決定した。

●農地の確保

所在地である野田村及び隣接する久慈市の農業委員会が中心となり、農地の確保を支援した。

遊休農地を借りることで、飛び地ではあるが十分な農地を確保することができた。



規模拡大が進むブロッコリーほ場

●就農計画作成支援

品目の選定についてはJ A・普及指導センターが、農地の確保については市村・農業委員会が、機械の導入計画については、県農政部・普及指導センターが、**収支計画作成については普及指導センターが中心となり支援**を行った。

●規模拡大支援

規模拡大に向け、令和6年度は**農業経営・就農支援センターとサポートチームが一丸となり栽培技術の向上、省力化機械の導入、農地の確保を支援。**

就農した令和3年度の0.6haから、令和4年度は1.7ha、令和5年度は2.6ha、令和6年度は3.6haと**順調に規模を拡大**。さらに、令和7年度は、きゅうり、ブロッコリーの規模拡大を予定。



令和6年度に導入した省力化機械（乗用全自動野菜移植機）

今後の意気込み

今育てている野菜の品質を高め、自分が理想とする姿に近づくことが目標です。

そのうえで、さらに規模を拡大しながら違う野菜の栽培も検討しなければいけないと思っています。

規模拡大することで雇用を増やし、地域の活性化に繋がっていきたいです。

専属スタッフ所感

経営の中心となる果菜類にブロッコリーを組み合わせた栽培体系の先駆者であり、野菜栽培での新規就農のモデルとなっています。

今後は、更なる規模拡大、栽培技術の向上、法人化等を農業経営・就農支援センターとサポートチームで支援していきます。



一番活躍しているトラクターと 堀氏

概要

◆氏名・所在地

堀 哲弥 宮城県丸森町

◆就農年

令和6年3月

◆経営規模

ブロッコリー 0.3ha、ニンジン 0.8ha等

◆従業員数

パート・アルバイト 5名

◆事業内容

研修先で学んだニンジンを中心に、露地野菜を年間出荷できる栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

岡山県出身。東京の大学に進学後一般企業に就職し、仙台市へ転勤。宮城県での生活に慣れ、管理職も任される中で、徐々に仕事に対する疑問や将来への不安を感じていた。このとき、「生涯できる仕事」と「やりがい」を考え、一次産業としてニーズが高まっている「農業」に興味を持つようになった。

農業経験が全くなかったため、ネットで情報収集し、「宮城県農業経営・就農支援センター」が行っている就農相談会を知った。

2

相談内容

ネット等を活用し、宮城県内で「移住と研修が出来る」「有機栽培が出来る場所」について情報を集めた。

その中で、雪が少なく、仙台市より南で、「移住＋農業が実現できる場所」として、宮城県の仙南地域を候補と決め、具体的に受け入れてもらえる就農地や、就農までの道筋について相談した。

3

支援内容

●生活面の相談対応と研修機関等の紹介

相談会后、就農候補地が丸森町になったため、サテライト窓口である普及指導センター及び丸森町と情報を共有することにより、堀氏が希望する空き家、農地などの様々な物件を紹介することができ、スムーズな移住先の確保につながった。

また、月1回、農地取得・生活資金面などについて、丸森町等の関係機関で打合せをおこない、就農に向けた支援体制を整備した。

研修先は丸森町及び普及指導センターで検討し、研修先を紹介。本格的に研修を始める前に、研修予定先で1年かけて農業体験を行い、その後1年間、本格的に研修を受けた。



研修先やJAの指導の下、初めてブロッコリーを収穫

●関係機関との連携による取組

研修先が決まり、本格的に1年の研修が始まると同時に、補助事業を活用できるよう、丸森町や普及指導センターを中心に支援体制を強化し、就農計画の作成、農地、資金の借入等を重点的に支援した。

●就農市町村の決定

農業経営・就農支援センターの就農相談会で、「丸森町は移住者が多く、農業を実践している先輩が多いこと」や、「移住＋農業を実現する上で、町独自の支援策やサポート体制が整っていたこと」等の情報提供をしたところ、丸森町を就農地の第1候補として就農活動を展開することにつながった。



現地確認で育苗の状況を関係機関に説明

今後の意気込み

丸森町で念願だった露地野菜の栽培ができました。現在は研修先や町内の先輩農業者の方の働き方や作型を必死に勉強し、農業に励んでいます。

令和6年は夏の暑さや急な雨など、天候に振り回される1年でした。今後は、天候に負けない苗作り、排水対策で、年間を通して安定した出荷ができるよう頑張ります。

専属スタッフ所感

研修中から、地域の方とコミュニケーションをとり、早い段階から地域に認知されたのは、堀氏の努力と経験の賜です。研修中の就農準備はとても大変だったと思いますが、しっかりと将来を見据え、計画を作成されました。

就農後は労働力不足が懸念されましたが、一時的に雇用を入れることで、収入が増えることを実感され、既に1年目の目標収入を超えました。効率よい仕事を目指す堀氏を引き続き、支援していきます。



蝦名氏 (旧姓 鈴木)

概要

◆氏名・所在地

蝦名 絃稀 (旧姓 鈴木)・秋田県北秋田市

◆就農年

令和7年4月

◆経営規模

露地きゅうり 10a (予定)

◆従業員数

家族労働 1名

◆事業内容

露地きゅうり等の栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

高校卒業後、他産業に従事していたものの、農業のアルバイトを行った際、自らの手で農産物を生産・出荷することに喜びを感じ、就農したいと思うようになった。生産者である祖父の後押しもあり、将来的には地域の中心的な担い手となることを目標に、まずは県で実施している2年間の研修を受講することになった。

研修を受けるなかで、就農後の資金面などに不安を感じ、地域振興局に設置されている「農業経営・就農支援センターサテライト窓口」に相談。

2

相談内容

就農後はきゅうりを主体とした野菜生産等に取り組みたいと考えており、研修を通じて栽培技術や経営に関する基礎的な知識の習得に励んできた。

しかし、就農後の資金確保などの経営面の不安があり、活用可能な融資制度や補助事業などについての情報を得たい。

また、栽培に適した農地の選定についてのアドバイスをお願いしたい。

3

支援内容

●関係機関と連携した相談対応

関係機関が一体となった支援チームを編成。

その上で、普及指導センターと北秋田市役所が連携して、融資制度や設備導入等に活用可能な補助事業を紹介した他、事業費が高額になることから、導入予定の設備をより安価なものに変更すること等を提案し、事業費を低減することができた。

また、上記の内容を反映した就農後5年間の営農計画の作成を支援し、就農後の具体的なイメージを描くことができた。

●農地利用に関する相談対応

普及指導センターにより、作付け予定圃場の物理性や化学性を調査し、野菜栽培に適した圃場にするために排水性の改善等の対策を提案した。

また、作付けにあたり、地番など農業委員会に確認すべき点があったことから、必要な手続きを普及指導センターが説明した。



相談対応の様子



作付けほ場の確認の様子

今後の意気込み

自分自身で調べただけでは分からないことも多くありましたが、関係機関の方々が連携して相談にのってくださったことで、就農に向けた準備を円滑に進めることができました。

就農にあたり不安な点は多々ありますが、地域の中心的な担い手となるよう頑張っていきたいです。

専属スタッフ所感

高い志を持っており、生産者が減少するなかで、将来の有望な担い手候補です。

資金面などで不安を持っていたものの、手厚い支援により具体的な営農計画の作成につなげることができました。

就農後も栽培面や経営面で課題が出てくると思いますが、引き続き関係機関による支援をお願いしたいです。



菅原氏（左）と出し手の菅野氏（右）

概要

- ◆氏名・所在地
菅原佳士 山形県寒河江市
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
さくらんぼ 43a、もも 40a、すもも30a
- ◆従業員数
家族労働 1名、パート・アルバイト 10名（ピーク時）
- ◆事業内容
第三者継承により果樹園の経営に取り組む。

1 就農相談までの背景

宮城県出身の菅原氏は、県内各地でさくらんぼの木が切り倒されるのを見て、農家出身ではないが夫婦で就農し、さくらんぼの生産に取り組みたいと考えるようになった。

令和4年夏以降、夫婦そろって山形県農業経営・就農支援センターの就農相談窓口である（公財）やまがた農業支援センター（愛称：農サポやまがた）を訪問し、就農相談を行った。

2 相談対応

●農業研修に向けた流れ等を説明

菅原夫妻が農業未経験ということで、技術習得の方法、農地取得の課題や手続き等について助言。また、研修中は研修に専念するため収入を得る活動はできないこと、小さいお子さんがいて、2人一緒の研修では、制約が出てきかねないこと、生活面をどうするかなどよく考えるよう助言した結果、菅原氏1人での研修開始となった。

3 支援内容

●研修の開始、出し手との出会い

寒河江市でさくらんぼ園を営む受入農家の下で2年間の研修に取り組んでいたところ、受入農家の園地の隣に園地を有し、令和5年で農業をやめると宣言していた菅野恵子氏から、園地を引き継がないかと話が合った。

●第三者継承に向けた関係機関の支援

菅原氏は、独立就農者育成研修1年目であったが、園地確保の好機と考え、受入農家、農サポやまがたと相談。その後、菅野氏、県西村山農業技術普及課も加えた4者面談を行い、継承に向けた話し合いを進めた。

その結果、令和6年の春、園地と作業小屋、機械、技術・販路等、有形・無形の資産と出し手の「農」への「想い」も込めたバトンリレーが行われた。

●継承後の出し手からの指導・助言

独立就農後、菅原氏は、農サポやまがたの「経営継承サポーター設置支援事業」を活用し、出し手の菅野氏に指導をもらう体制を整えた。菅野氏から、6カ月間、一緒に作業をしながらさくらんぼ栽培や出荷、顧客管理等に係る指導助言を得た。その結果、JAさがえ西村山主催の品評会において「優秀賞二席」を獲得。

※「経営継承サポート設置支援事業」・・・第三者継承を行う出し手を受け手が働き手として雇用するための経費を支援する事業

●継承後の経営発展に向けて

自身の経営の発展と仲間づくりに向け、農サポやまがたが実施する「令和6年度やまがた新規就農者交流研修会」（就農3年以内の若手農家が対象）に参加。経営の専門家から指導を得るとともに、就農後の実態を踏まえた経営プランを考え、研修会の場で発表した。

菅原氏は、令和7年度も、経営継承サポーター設置事業（2年目）を活用し、引き続き、菅野氏の指導を得て、美味しい果実づくりに向けた栽培技術等の向上を目指すこととしており、関係機関が連携しながら伴走支援を行っている。



新規就農者交流研修会



JAさがえ西村山品評会優秀賞二席

今後の意気込み

山間園地の寒暖差を活かし、高品質で、美味しい果物の栽培に特化していきたいと思っています。地域になくてはならない、ここでしか作ることができない果物を生産し、お客様に喜ばれる農業を展開することが目標です。

専属スタッフ所感

出し手の農業をやめる時期と新規就農したい受け手の就農のタイミングが重なり、経営継承に向けた話し合いに入ることができました。関係機関の参加も得て、出し手と良好な関係を維持しながら協議を進めることができました。

継承後、菅原氏は、農サポやまがたやJAの研修会に積極的に参加するなど、地域での仲間づくりに取り組んでいます。これからも初心を忘れることなく、農業に取り組んでいたきたいと思っています。



左は鹿野氏、右は木下氏

概要

- ◆氏名・所在地
鹿野 剛志、木下 歩美 福島県福島市
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
モモ 45a、ブドウ 30a
- ◆従業員数
2名（就農者のみ）
- ◆事業内容
モモ及びブドウの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

平成31年に福島大学に新設された農学群食農学類の1期生として入学。大学入学時はまったく就農を考えていなかったが、2年生の時に参加したイベントで福島市の先輩果樹農家と出会い、農作業を手伝う中で興味を持った。その後、市と「福島県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」及び関係機関の合同相談会等に参加し、本格的な就農に向けて相談を始めた。

2 相談内容

果樹栽培の盛んな福島市で就農することは決まっていた。はじめは大学卒業後すぐの就農を考えていたが、相談会の中でやはり技術を身につけることが必要とわかったため、まずは研修先を相談した。また、研修時から就農に至るまで活用できる補助事業の情報や、青年等就農計画の作成について相談した。

3 支援内容

●研修機関等の紹介・研修中のフォローアップ

相談者に研修情報を提供し、福島県農業総合センター果樹研究所に決定した。

相談者は就農準備資金を活用して研修を開始。専属スタッフやサテライト窓口職員が、年に2回、相談者の研修先を訪問し、現状の確認と今後について研修先の指導者と共に面談する等のフォローアップを行った。

●農地の相談対応

成園地のマッチング支援や生活資金面など、農業を始めらる上で必要な情報の提案を関係機関が連携して行った。



果樹研究所時代の視察研修の様子

●青年等就農計画の作成支援

普及指導センターで計画作成の支援を行い、鹿野氏は初年度モモ45a（苗木を含む）、木下氏は初年度ブドウ30aで営農をスタートした。

●栽培指導会やセミナー等への誘導

福島・川俣地域新規就農者研修会やアグリビジネススクールに積極的に参加。



福島・川俣地域新規就農者研修会受講の様子

今後の意気込み

果樹栽培は収穫できるようになるまで年数がかかるため、はじめに成園地を引き継ぐことができたのは大きなことでした。今後は、自分たちの作ったものがブランドとして消費者に少しずつ認知されるよう、日々勉強しておいしい果物を作っていきます。また、若い世代の新規就農のモデルとして地域農業発展の力になりたいです。

専属スタッフ所感

相談者は大学を卒業したばかりで、農業経営に関してはほとんど何も知らない状態でしたが、ご自身でも積極的に果樹農家等に赴いて情報収集され、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



派遣先農家での栽培技術指導

概要

◆氏名・所在地

鬼澤 和久 茨城県ひたちなか市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

ほしいも農家として就農することを希望し、就農準備資金を受けられる認定研修機関である公益社団法人茨城県農林振興公社(以下、「公社」という)において1年間の長期研修に取り組んでいる。

1 就農相談までの背景

農業集落で育ち、農業、自然に興味や親しみがあり、特にほしいもには興味があった。以前から事業主になりたいという思いがあり、30歳になったときに一念発起して地元でほしいも農家をやろうとターン。実際に地元で農業・ほしいも生産に携わり、独立就農を改めて決意した。

支援制度を活用した、技術習得のための研修、農地確保について相談するため、「茨城県農業経営・就農支援センター」(以下「支援センター」という)へ相談した。

2 相談内容

非農家出身であるため、**ほしいも農家として独立就農するにあたり、必要な設備や機械等を所有しておらず、初期投資に活用できる支援制度について具体的に知りたい。**その他、就農希望地で認定新規就農者になるために必要なことは何か、就農希望地に借用可能な農地はあるか相談したい。

また、栽培技術を習得できる研修先を紹介してほしい。

3 支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、**就農イベント等で相談者と就農相談を重ねながら、相談者の就農意欲、就農希望地、希望栽培品目等の確認を行い、就農準備資金を活用した技術研修制度について案内した。**

就農希望地を管轄する農業改良普及センター(以下、「普及センター」という)と連携して研修先となる派遣先農家の候補を選定し、インターンシップを通して相談者と派遣先農家候補とのマッチングを行った上で、**研修先となる農家を決定し、普及センターが研修計画等作成を支援して研修を開始した。**



茨城県新規就農相談センター主催の就農相談会

●関係機関との連携による取組

初期投資に対する支援制度や認定新規就農者制度については、就農希望地の自治体の農政課を、農地確保の相談については、就農希望地の農業委員会を紹介し、それぞれ研修を行いながら情報収集を行うよう助言した。

引き続き、県の認定研修機関である公社と普及センターで研修生の**研修状況確認を密に行い、関係機関と連携して、就農に向けた細やかな支援を行っていく。**



就農希望地の先輩農業者、新規就農希望者等での意見交換会

今後の意気込み

研修を通してほしいも農家のいろはと農業経営を学んでいます。美味しいほしいもを作り顧客に「小さな幸せ時間」を提供できるほしいも農家を目指します！そのために良質なさつまいも栽培とほしいも加工を頑張っていきます。農業経営者としてはブランディング・マーケティングにも注力し、利益も追求し健全かつ持続的な農業経営を目指していきます！

専属スタッフ所感

支援センターの機能のうち、就農支援を担う茨城県新規就農相談センターの業務を担う公社は、就農準備資金に係る県の認定研修機関にも指定されているため、独自のカリキュラムによる研修を提供するとともに、関係機関と連携して、将来儲かる農業経営を実現する資質の高い農業者を育成すべく、就農支援を行っています。

鬼澤氏に関しても、研修先農家での学びをもとに、「経営者マインド」を持った地域を牽引する担い手となることを期待しつつ支援にあたっております。



圃場で作業する高橋氏

概要

◆氏名・所在地

高橋 有希子 栃木県宇都宮市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

いちご栽培での就農を希望し、（公財）宇都宮市農業公社での1年間の長期研修に取り組んだ。

1 就農相談までの背景

自分で作り上げる生産という仕事に強い興味があり、作るなら自分も大好きで、みんなにも喜んでもらえる物がよいと考えた。栃木県の名産であるいちごは需要も高く、収益性も見込めるため新規就農するには最適な作物だと考え、いちごを志望した。

何から始めれば良いか分からなかったため、「とちぎ農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」へ相談した。

2 相談内容

元々会社員として働いていたが、研修後、独立就農して、本格的にいちご栽培を行いたい。

しかし、技術面や資金面に課題があることから、就農に向けた栽培技術の習得方法や支援制度等について具体的に知りたい。

3 支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、栽培技術習得研修や就農準備資金、経営開始資金、認定新規就農者制度について説明した。

また、栽培品目と就農地が定まっていたことから、該当地域を管轄する支援センターのサテライト窓口である河内農業振興事務所を紹介し、事務所では研修制度の要件確認と、いちご栽培技術を学ぶための派遣研修先となる宇都宮市農業公社との調整を行った。

その後、宇都宮市就農サポートチームで研修計画作成支援を行い、宇都宮市農業公社での研修を開始した。

宇都宮市農業公社において、実践的な農業技術や農政にかかる基礎知識、農業経営者としての自立に向けたカリキュラムや農家派遣研修を受けた。

●関係機関との連携による取組

河内農業振興事務所と宇都宮市農業公社が、研修生や研修指導者に対する現地での定期的な研修状況の確認や個別相談対応を随時行った結果、順調に栽培技術を習得していることを確認できた。今後各市町村等と連携して、引き続き就農・定着に向けて支援していく。

●就農市町村の決定

研修を受けながら、地域の就農サポートチームで農地や施設の取得、資金確保、青年等就農計画の作成等の支援を行った。

結果、農地も確保され、就農への目処がたった。



相談対応の様子



研修会の様子

今後の意気込み

皆さまのおかげで無事に就農できました。

就農1年目の現在はハウス5棟ですが、2年目には8棟、3年目には12棟に増やして、規模拡大していきたいです。

専属スタッフ所感

支援センターは就農希望者のワンストップ窓口となっています。就農相談に来る方は、栽培品目や就農地が決まっていない方、移住まで検討している方、既に農業の方向性は定まっているが支援制度を知りたい方、農地の確保を図りたい方等様々であるため、相談内容に応じ、県農業振興事務所、市町村、JA等に繋げています。

今回の相談者は内容が具体的であり、意欲が高かったため、いち早く実践的な研修に入れるよう対応しました。



渡辺氏御夫妻（向かって右が翔月氏）

概要

- ◆氏名・所在地
渡辺 翔月氏 群馬県北群馬郡榛東村
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
ブロッコリー0.8ha、スイートコーン0.3ha、露地ナス0.1ha、
水稻1.6ha
- ◆従業員数
家族労働2名、パート3名
- ◆事業内容
水稻や露地野菜の栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

農業高校を卒業後、北海道の酪農家の下で研修を受けその後は群馬県で酪農ヘルパーとして就農希望を持っていたが、物価高騰等の情勢もあり露地野菜での就農を志すこととなった。

就農希望地域に適した品目での就農を実現するため、技術研修や支援制度について渋川地区農業指導センターへ相談した。

2

相談内容

「将来的に地元で酪農を営みたい」という想いで就農相談を進め、まずは就農地予定の榛東村で推進している露地野菜や水稻での就農を志すこととなった。

酪農以外の知識は不十分だったので、技術習得や資金の準備、就農に向けた段取りなど専門的観点からの助言が必要だと実感したため、相談した。

3

支援内容

●営農計画作成と研修実施の相談対応

地域の特性にあった品目での就農を目指すものの、その栽培技術を身につける研修先が課題となった。就農希望地域にはマッチする研修先がなく、地域をまたいで西部農業事務所等と連携して研修先を探すこととした。

●技術研修の実施

就農準備資金を活用するにあたり、就農地と異なる地域での研修であるため、渋川地区農業指導センター、西部農業事務所、J A、農業経営・就農支援センター、県で連携して研修を支援した。



技術研修の様子

●研修中のフォローアップ

西部農業事務所、農業経営・就農支援センターが農業経営者としての自立に向けたカリキュラムや研修を実施した。また、研修生や研修指導者に対する研修状況の確認等を行い、栽培技術の取得と就農に向けた準備状況を確認した。

●就農後のフォローアップ

渋川地区農業指導センターやJ A、市町村、農業経営・就農支援センター、県が連携して、就農後の栽培技術や経営面でのフォローアップを実施している。



農業機械研修を受ける様子（右から3人目が渡辺氏）

今後の意気込み

まずは経営を安定させ、後々は地域性を考慮し、自然環境に配慮した農業に取り組んでいきたい。また、地域の担い手として、農業を活気づけていきたい。

研修先の選定や、諸々の支援策の活用支援等、とても丁寧に対応してもらった。地域を引っ張る担い手として貢献していきたい。

専属スタッフ所感

多くの就農希望者が、夢のような実現の難しい営農計画を作成しがちですが、この方は、実現性の高い計画を早い段階から作り込んでいました。また、行動力も優れており、就農一年目から様々なことにチャレンジしています。

販路も積極的に開拓しており、栽培、販売の取り組みをSNSで発信し、就農1年目にして、既にお客さんの心をしっかりつかんでいることにも感心しています。



君島氏

概要

- ◆氏名・所在地
君島 つぐみ 埼玉県川越市
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
いちご 0.16ha
- ◆従業員数
家族労働 3名
- ◆事業内容
いちごの高設栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

市役所に勤務し新規就農者の支援を行う中で、高設いちご栽培に興味を持ち、自ら生産者になることを目指した。栽培技術を習得するため、他県の農業法人で半年間勤務したが、その後地元での自営就農を決意した。計画的な自営就農を実現するべく情報収集をしていたところ、「埼玉県農業経営・就農支援センター」を知り、サテライト窓口である普及指導センターへ相談することとした。

2

相談内容

農業法人で勤務したため、いちご栽培に関する技術や知識は多少あったものの、地元で根差した経営をしたいと考え、研修などができる地域の指導農業士等の紹介を依頼した。
また、農地の情報や補助事業等の行政による就農支援制度について相談したい。

3

支援内容

●就農に関する情報提供

県の就農支援制度や、国の補助事業について情報提供を行った。また、開業に必要な資金を圧縮するため、中古ハウスの活用を提案した。

●研修先の紹介

普及指導センター管内の指導農業士を紹介し、指導農業士が経営する農業法人に就職し、約2年間いちごの栽培や経営を学ぶ実践研修を行った。

●関係機関との連携による自営就農支援

農地と中古ハウスの確保に向けては、市や農業委員会が支援し、就農に向け具体的な動きが進展した。
また、就農に向け、青年等就農計画の作成支援や、経営開始資金及び経営発展支援事業の活用について、関係機関と連携しサポートした。
このほか、経営力向上のため県で開催する農業経営塾の受講支援を行った。



相談対応の様子



県育成品種「べにたま」も栽培

今後の意気込み

普及指導センターで研修先として紹介してもらった指導農業士の農業法人で、約2年間いちごの栽培技術や経営等を学ぶことができました。

現在、16aの栽培ですが、今後、栽培面積を拡大し、観光農園や直売所以外の販路開拓も行っていきたいと考えています。

専属スタッフ所感

相談者は、就農におけるビジョンが明確化されており、研修先でも意欲的に栽培技術等の取得に取り組まれています。また、就農地を当初の希望から変更するなど柔軟に対応することで、農地及び中古ハウスを確保することができました。

今後も、栽培面積の拡大や経営発展等の希望があるため、必要に応じて支援を行っていきます。



久保氏

概要

- ◆氏名・所在地
久保 将人 千葉県富里市
- ◆就農年
令和6年7月
- ◆経営規模
ニンジン、ジャガイモ、カボチャ、メロン 0.8ha
- ◆従業員数
家族労働 1名
- ◆事業内容
露地野菜の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

前職は動物看護師であり、農業には全く携わったことがなかった。妻の実家が農家であったことから、農業に興味を持ち始め、後継者になることを決意した。

新規就農者の相談窓口についてネットで調べたところ、「千葉県農業経営・就農支援センター」の存在を知った。

2 相談内容

農業の知識がほとんどなく、千葉県の農業の状況や、農業を始めるにあたっての技術面や資金面の課題解決や何から始めたら良いかなどの専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、幅広く相談したい。

また、経営開始資金や経営発展支援事業の活用方法に関して相談したい。

3 支援内容

●研修機関等の紹介

農業の基本から学びたいという要望を受け、千葉県農業大学校を紹介したところ、農業研修科への入学に至った。

農業大学校では、カボチャの栽培や土づくりについて学び、技術や知識を習得し、実践につなげることができた。

●就農計画の作成支援

農業大学校を卒業後、青年等就農計画を作成する上で、品目の選定や導入機械、経営収支等を検討した。作成にあたっては、久保氏が取り組んでみたい品目を選定する一方で、義両親の経営も参考にして、独立就農に向けて準備を進めていった。

●関係機関との連携による総合支援

補助事業を活用するにあたって、市役所と連携し相談対応を行った。また、実践的な技術面での相談については、普及指導員と協力し、解決策に向けた指導、情報提供を行った。

●地域の仲間づくりや資質向上に向けた取組

営農開始後は、地域の農業者とのつながりが重要であることから、普及指導センターが開催している農業経営体育成セミナーに参加を促した。

セミナーに継続して参加することで、経営の課題である、よりよい土づくりに向けた取り組みを明確にすることができた。



セミナーでの自己紹介の様子 (久保氏は左から2番目)



セミナーでの意見発表の様子

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「農作業等を体験した程度」です。就農のイメージができるよう、農業の技術面や経営面、地域農業の概要等を説明しています。

相談者は、産地の主要品目であるトマトやニンジンの栽培に取り組まれ、土づくりにこだわった栽培を目指されています。今後は施設野菜の面積拡大の意向があり、地域の担い手として経営発展していくことを期待いたします。

今後の意気込み

日々失敗も含めて勉強する毎日です。今は近隣や組合の先輩方、関係機関の方々からのアドバイスにお世話になってばかりですが、いずれはよくやっているなど認めていただける事を目標に励んでいます。



松村氏

概要

◆氏名・所在地

松村 崇司 神奈川県横浜市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

露地栽培での就農を希望し、神奈川県立かながわ農業アカデミー（以下「アカデミー」という。）で1年間の研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

幼少期に、自身が育てた野菜を食べた人たちが喜んでくれたことがきっかけで農家を目指すようになった。高校、大学で農学を学び、卒業後は園芸の専門学校に入学したが、未来の農業者の卵達と共に過ごす中で、農業に対する考えが甘かったことを痛感した。

前職の雇用先で貸農園で栽培指導をしていたが、農業とは無関係だった農園利用者が農業に関心をもつようになった。そのことから、「農業のすばらしさを多くの人へ伝えていける農家」になりたいと思うようになり、**農家になるための手順等を知るため、「神奈川県農業経営・就農支援センター」へ相談した。**

2

相談内容

県内の地域ごとの就農要件や支援状況、就農地の選定について相談した。また、農業技術の習得のために、アカデミーに入校することを考えていたことから、入校までに準備することや入校してからの心構え等を相談した。

アカデミー入校後は、就農地の相談や青年等就農計画の策定方法について相談した。

3

支援内容

●地域ごとの就農状況等の情報提供

県内市町村の就農要件や支援状況の他、県内の農業や新規参入者の現状について情報提供した。

また、アカデミーへの入校に向けて、必要な準備についてアドバイスをを行った。

●農地利用や生活面の相談対応

就農地の選定・生活資金面など、農業を始める上で必要な情報を提案した。

●青年等就農計画の作成支援

作付け計画、販売方法、農業所得算出、単価の設定等についてアドバイスをを行い、就農計画の作成を支援した。

●就農市町村の決定

アカデミーから派遣された実習先の農家の協力により、農地の他、作業場や農業機械等の置き場を確保できることになり、就農地が決定したことから、**研修終了後には独立就農することが期待される。**



実習で管理機を操作する松村氏



実習で支柱をたてる松村氏（左）

今後の意気込み

これまで紆余曲折ありながらも、幼少期から目指してきた農家という道を、就農相談で歩み出すことができました。

アカデミーや研修先等で学んできた知識や経験を活かし、横浜市で農業に真摯に向き合い続けたいと思います。

専属スタッフ所感

相談者は栽培技術の面では問題ありませんでしたが、生業としての農業を考える上で資金面に課題がありました。しかし、アカデミーのカリキュラムの一環である先進農家派遣研修でお世話になった農家から、農地や農業機械等を借していただけるという多大な協力を受けることになりました。松村さんの誠実な人柄と農業への熱い思いが農家に伝わり、信頼関係を築くことができた結果、独立就農への道が開いたのだと思います。これからも、「農業のすばらしさを多くの人へ伝える農家」になるよう応援しています。



就農相談の様子

概要

◆氏名・所在地

小川 理志 東京都港区

◆研修開始予定年

令和7年4月

◆研修内容

ブドウ栽培での就農を希望し、短期農業体験を経て、4月から農林大学校の職業訓練科での長期研修に取り組む予定。

1

就農相談までの背景

これまでの職務経験の中で、1次産業の生産者と関わり、農業に関心を持った。その後、新・農業人フェアで山梨県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）からの説明や、知人農家から農業の魅力や栽培の面白さを聞いたこと等をきっかけに、山梨県で果樹栽培をしたいと思うようになった。**何から始めれば良いか分からなかったため、「就農相談会in峡東（山梨県峡東地域普及指導センター主催）」へ参加した。**

2

相談内容

山梨県に移住して、ブドウ栽培を行いたい。しかし、**全くの農業未経験のため、雇用就農に向けてまずは技術や知識をよく学び、将来的には独立してブドウ農家を目指したい。**

農業経験や山梨の土地勘が全くないことから、就農に向けての流れや支援制度等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

就農相談会では、普及指導センターや支援センター等が相談対応を行った。小川氏は農業経験が全くないため、**希望するブドウの栽培を実際に体験できる、県の農業体験事業である「チャレンジ農業体験」を説明した。**

その後、関係機関と連携し、体験先農家の紹介や日程調整を行った。

●チャレンジ農業体験の実施

農業体験により、農作業の適性を確かめることができ、農家の話を直接聞き、就農意欲が高まった。

体験終了後、雇用就農に向けて技術や知識を身につけるため、農林大学校の職業訓練科の受講準備を本格的に進めることとなった。



体験先でのブドウの剪定作業

●関係機関との連携による取組

小川氏は、農業体験中に宿泊施設ではなく就農後の暮らしがイメージできる場所で過ごしたいという希望を持っていたため、普及指導センターは市と連携し、市のお試し住宅に滞在できるよう調整した。

農業体験と市のお試し住宅制度を活用することで、山梨県で就農して暮らすイメージを明確化することができた。

今後も関係機関と連携し、引き続き就農に向けて支援していく。



体験先農家からの指導の様子

今後の意気込み

今は憧れを持ち続けていた農業に携われるという期待と希望でいっぱいです。まずは、山梨県立農林大学校の職業訓練科コースに通い、そこでしっかりと基礎を身につけた上で雇用就農を目指します。ゆくゆくは独立し、美味しい果物を生産できる立派な農家になれたらいいと思います。

専属スタッフ所感

会社を退職し、将来的には果樹の独立就農を目指したいという希望であったため、農地確保と栽培技術習得のためには、長期的な研修履修をすることが早道と伝えました。農業を行うためには技術力だけでなく経営力も必要となるため、研修や雇用就農を通じ、地域農家や農業法人との繋がりをつくり、独立時の糧としていただきたいと思います。



もものせん定を行うY氏

概要

◆氏名・所在地

Y. T 長野県長野市

◆研修開始年

令和7年4月

◆研修内容

もも・りんご栽培での就農を希望し、長野県新規就農里親制度による2年間の長期研修を開始する。

1

就農相談までの背景

前職では、林業関連の会社に約10年間勤務。人生の次のステップとして新しいことを始めたいと考えた時、学生時代に授業で体験した「農業」に興味を持った。自分なりにビジョンを描いてみたものの、**どんなステップがあるのか、どんな品目がよいのかなど、わからないことが多かったため、「長野県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」及び「普及指導センター」へ相談した。**

2

相談内容

独立就農して果樹栽培を行いたい。そこで、経験の無い自分が**イメージする品目が適切かどうか**、就農に向けたステップとしてどんな方法があるのか（**研修制度が法人就業か**）、**どのような支援制度があるのか**等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●関係機関との連携による相談活動

支援センターと普及指導センターとで情報を共有し、連携して相談にあたった。支援センターでは、**方向性を決める上で判断材料となる情報の提供**を行った。Yさんが当初イメージしていた品目の情勢や特徴、地域のお勧め品目、研修制度の仕組みと支援策、法人就業の留意点等を説明した。普及支援センターでは、長野市やJ Aとも連携し、独立就農までのプロセスと、家族であらかじめ話し合っておいていただきたいことなどを助言した。

●農作業体験の紹介

最初に相談いただいた時点で、Yさんには**果樹での十分な農作業体験が無かったため、農業バイトや県農業大学校が行う農業体験などの研修方法を紹介した**。そこでYさんは、果樹農家でのアルバイトを開始し、J Aにも自ら足を運んで相談をするなど、体験と情報収集を積み重ねていった。**体験に基づき、自分に合った品目を決めて就農プランを立て、資金計画も家族で話し合いながら、農業への想いを固めていった。**

●研修方法や研修先の決定

品目、就農プランが明確になったので、改めて今後の研修方法について関係者も交えて話し合った。

長野県では、就農後の早期の経営確立を目指し、里親農業者による実地研修と農業大学校研修部での集合研修を組み合わせた「新規就農里親研修」を実施しており、令和7年4月より里親研修を始めることになった。

●研修開始までの支援

里親研修制度は、受け入れていただく里親農業者との事前の調整が重要であることから、**2年間の研修計画と研修の進め方をYさんと里親農業者でよく話し合っ決めていただいた。**

普及指導センターでも、計画の内容について助言するとともに、研修にあたっての「申し合わせ事項」を取り決め、今後、深い関わりとなる長野市、地元農業委員、J Aが立ち合いの元「**調印式**」を実施し、**関係者で研修内容の共有を図り、関係者が一丸となってYさんの独立を支援していくことを確認した。**



研修内容に関する「申し合わせ事項」に署名をする
Y氏(左)と里親農業者(右)

今後の意気込み

希望する地域で「果樹農家になりたいんです」と言うと「農家は大変だけど良いぞ」と応援してくれる先輩農家の方が、多いことが頼もしく、とても励みになっています。

就農に向けて2年間の研修が始まるが、決して受け身ならず、常にアンテナを張り地域の担い手となれる様に頑張りたいです。

専属スタッフ所感

Yさんは、相談や体験を重ねることでイメージが明確になり、研修方法や品目が絞られていきました。支援センターと普及指導センターが情報を共有し、スムーズな相談に繋がりました。今回は、就農地が決まっており、独立への意思が明確、本人の行動力などから、早い段階で長期研修が決まりました。支援センターは最初の相談窓口ですので、漠然としたご相談でも大丈夫です。相談を重ねることで方向性が見えてくるようにお手伝いしています。



戸田氏

概要

◆氏名・所在地

戸田 隆博 静岡県伊豆の国市

◆研修開始年

令和6年12月

◆研修内容

イチゴ栽培での就農を希望し、「がんばる新農業人支援事業」にて地元農業経営者の指導のもと、1年間の研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

前職で小売業に勤務していたが、将来の生活設計で夫婦でできる職業を考えていて、仕事柄細かい作業をしていたことから農業に興味を持った。その後、農業を始める手順や品目等わからなかったため、ネットを通じて調べたところ、**静岡県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）**で就農相談窓口「しずおかで農業人になる」があることを知り、相談した。

2

相談内容

夫婦で農業を考えており、今後**独立就農して、本格的に農業経営を行いたい。**

しかし、就農に際して農地取得や選択する品目・技術面等不安な課題があることから、就農に向けた方法について具体的に知りたい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、「がんばる新農業人支援事業」による独立プログラムの説明をした。

また、栽培品目と就農地が定まっていないことから、興味のあるイチゴで「短期農業インターン受入事業」に応募することにし、管轄する支援センターのサテライト窓口である普及指導センターを紹介。普及指導センターでは研修制度の要件確認とイチゴの栽培技術を学ぶための派遣研修先となる生産者2名を紹介した。

研修終了後、「がんばる新農業人支援事業」に応募し、面接選考ののち、1年間の研修を開始した。

●関係機関との連携による取組

伊豆の国地域受入連絡会（農協・市・普及指導センター・受入農家）が、研修生や研修指導者に対する現地での**定期的な研修状況の確認や相談対応を随時行った結果、順調に栽培技術を習得していることを確認できた。**今後も連絡会と連携して、引き続き就農に向けて支援していく。

●就農に向けた支援

連絡会のもと、就農候補地の確保や資金計画・就農計画の策定支援を実施し、1年間の**研修終了後の独立就農に向けた見通しが立った。**



短期研修の様子



圃場での作業の様子

今後の意気込み

農業に関する知識がない中、漠然としていたところから、実際研修を実施し、受入農家の指導や関係機関の就農に向けた支援をいただき、1年後の独立就農に向けてイメージができてきました。今後も頑張ってイチゴの技術研鑽をしていきたいです。

専属スタッフ所感

就農相談に来る方は、漠然と農業に興味があるという相談から、半農半x的農業を希望する方、独立就農を目指す方など様々です。また、相談窓口が分からないという方も多くあります。

支援センターはワンストップで相談対応する組織ですので気兼ねなく相談して下さい。また、県では研修制度や受入体制も充実していますのでスムーズな形で研修できます。



研修を受け入れていただいた岡村氏

概要

◆氏名・所在地

渡辺 顕治 新潟県新潟市

◆就農年

令和6年10月

◆経営規模

ぶどう 40a

◆従業員数

本人 1名

◆事業内容

シャインマスカット、巨峰の栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

高校で食物学科で学び、料理で人々を喜ばせたいと調理師免許を取得し、飲食店で調理の仕事をしていた。

しかし、コロナ禍で、仕事が思うように出来なくなったことから、食材の農産物を栽培する農業に興味を持った。

就農するにはどうしたらよいのかネットで調べていたところ「農業経営・就農支援センター（旧：青年農業者等育成センター。以下「支援センター」という）」のHPから、就農相談会が近日中に開催されることを知った。

2

相談内容

相談会では、支援センターの農業総合相談ブースで栽培したい作目、就農希望地、農業体験等について相談した。

支援センターの担当者から、いくつかの相談機関を紹介された中、関心のある果樹の独立就農が可能な新潟西部地域担い手対策協議会※1のブースを訪ね、後日、巻農業普及指導センターへ農業体験などの詳細について相談することとなった。

※1 農業の担い手の確保・育成・定着を目的に、新潟市西区、西蒲区、J A新潟かがやき、巻農業普及指導センターで構成された組織

3

支援内容

●研修先の決定

連絡を受け、担い手対策協議会で対応を協議し、管内のぶどう産地である中ノ口地区の生産者岡村直道氏を紹介した。

その後、アルバイトを兼ねた短期研修を行いながら、岡村氏を研修先として里親制度※2を活用して令和4年10月から2年間の研修を開始した。

※2 新潟西部地域担い手対策協議会でされている研修制度

●関係機関との連携による取組

担い手対策協議会では、効率的な研修となるよう新潟県農業大学校の就農実践コース※3への参加を促すとともに、就農準備資金を活用した研修を支援した。就農後も経営開始資金の導入、技術支援や経営指導など、安心して営農が出来るように支援を行っている。

※3 円滑な就農や雇用就業に必要な技術や経営に関する約1年間の講義・実習を通じ、基礎知識や技術等の習得を目指す研修

●就農開始に向けた取組

J A担当者を中心に園地を探し、令和6年10月の就農当初から40aの園地を確保し経営を開始することができた。

園地ではぶどうの苗木の定植を行い、就農初年度からある程度の売り上げを確保できるように準備を行った。

今後の意気込み

しばらくはシャインマスカットをメインに栽培し、余裕が出てきた段階で、他品種も導入したいと考えています。

将来は周囲の遊休農地でワイン用ぶどうを栽培し、集客して直売したり、規模拡大しての法人化や、夢ですがワイン醸造なども行っていきたく考えています。

これまで支援いただいた方々に感謝申し上げますとともに、これから引き続きよろしくお願いします。



相談対応の様子



剪定作業の様子

専属スタッフ所感

最初就農相談時から就農に期待大の青年の印象を受けました。研修受入経営体のご協力により、研修時から新たなぶどうの定植を行い、令和7年度から収穫が可能ということで、美味しいぶどうが実るよう樹の手入れに励んでいただきたいと思います。

また、5年後には、果樹園地の面積を2倍にする計画ということで、地域の中心的な経営体として成長していくことを期待しております。



カレッジ農場での栽培実習

概要

◆氏名・所在地

松本 アキラ 富山県魚津市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

とやま農業未来カレッジ（以下、「カレッジ」という。）にて1年間、栽培技術や農業経営などの講義、作物実習、機械演習等に取り組む。

1 就農相談までの背景

農業に興味を持ちながらも、非農家で経験する機会も得られなかったため、県外で製造業に就いていた。母から、知り合いの農業者が後継者を探しているとの話を聞き、また家族の勧めもあり、仕事を辞め農業に就く決心が固まった。後継者候補として歓迎されたものの、農業は未経験。知識や技術もないため、一定程度の知識習得の必要性を感じ、情報を調べたところ、「とやま就農ナビ」を見つけ、「富山農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に相談をした。

2 相談内容

後継者候補として、就農に向けての話は進んだものの、今まで農作業の経験が全く無いため、農業の知識・技術を習得するにはどうすればよいか、研修中の生活資金の確保はどうすればよいかなど、詳しく教えてほしい。

3 支援内容

●知識・技術習得に向けた相談対応

支援センターでは、専属スタッフが栽培技術習得に向けた研修制度や研修期間中の支援策等について説明した。技術習得については、農業の知識が殆どない一方、継承することがすでに決まっており、早急に農業全般の知識を身に付ける必要が高いと判断されたため、栽培技術から経営管理まで総合的に履修できるカレッジでの研修を勧めた。また、栽培品目と就農地が定まっていたことから、就農後のフォローアップが進むよう該当地域の市町村、農林振興センターとの連絡・情報共有を図った。

●とやま農業未来カレッジでの

総合的知識・技術の習得支援

カレッジでは、総合的な農業知識に加え、カレッジ農場等での栽培実習や機械操作演習を行い、基礎技能の習得を図った。支援センタースタッフも定期的にカレッジに出向き就農計画策定の助言を行い、就農から継承までのロードマップを描くことなどの支援を行った。

●関係機関との連携による取組

カレッジ卒業後は、継承予定農家において2年程度かけて段階的に継承が進むよう実地研修を行う計画である。実地研修による技術習得に加え、経営理念の継承、地域や顧客との信頼獲得などが円滑に行われるよう、市町村や農林振興センター等と連携しながら支援を進める予定である。



カレッジでの機械演習（畝たて作業）

今後の意気込み

農業未経験ながら、継承の話がすすみ、不安だけが残っていました。支援センターに何度も相談したことで、就農に向けた道筋が明らかとなり、大変助かりました。

カレッジでは、志を同じとする仲間と協力し合い知識・技術を高めることができました。今後は、カレッジで得たことを活かしながら、継承予定農家での研修、そして継承に向け頑張っていきます。

専属スタッフ所感

支援センターでは、随時、専属スタッフが農業経験の状況や相談者の希望なども踏まえ、相談に応じています。

相談者は、経営継承、就農に向けカレッジ研修に意欲的に取り組んでおり、農業が職業となり、地域農業の担い手となるよう、関係機関と連携し、就農をサポートしていきます。



中野氏

概要

◆氏名・所在地

中野 翔太 石川県能登町

◆就農年

令和7年4月

◆経営規模

トマト ハウス3棟、キュウリ ハウス3棟、スイカ0.2ha、ブロッコリー0.2ha

◆従業員数

なし

◆事業内容

トマト、キュウリ、スイカ、ブロッコリーの栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

ＪＡに勤めている母親から「地元で就農しないか」と誘われたことがきっかけで、「Ｕターンして地域に根付いた農業を始め、地域の産業を盛り立てる一助になりたい」と思った。

母親から相談先として「農業経営・就農支援センター」を教えてもらい、まず、普及指導センターにいる支援センターの地域コーディネーターに相談した。

2

相談内容

「石川県能登町でトマトを栽培したい」と大まかな構想はあったので、自分なりに情報を集め始めた。

しかし、技術力不足や自分で経営計画を立てることに不安があり、営農に必要な技術や農業経営等について具体的に学びたい。

3

支援内容

●いしかわ耕稼塾での研修

令和6年4月からいしかわ耕稼塾「本科」※に入塾し、栽培実習や講義（栽培・経営）等を通じて、自営就農に必要な技術や知識の習得を図った。

※月～金曜日まで年約240日間、栽培実習や講義を受ける研修コース。

支援センターでは、支援センターのサテライト窓口である普及指導センターと連携し、本科のカリキュラムの農家派遣研修（5日間）の受け入れ先を選定し、就農希望地・品目であるトマト部会にて研修を実施させてもらった。

農家派遣研修では、部会員に新規就農希望者について知ってもらうことができ、その後親身になってアドバイスいただける良好な関係を築くことができた。



いしかわ耕稼塾での研修の様子

●関係機関との連携による取組

農業経営・就農支援センターは、普及指導センター、能登町役場、ＪＡ内浦町と、就農にむけた打合せを定期的に（月1回）実施。

研修生の意向を確認しながら、農地の確保や農業機械、営農計画等について検討し、青年等就農計画認定や支事業の活用等にもむけて協議を続けた。

令和7年4月から自営就農を開始予定である。



関係機関との打合せの様子

今後の意気込み

就農に向けた手順を丁寧にご教示いただき、就農に向けた一歩を踏み出すことができました。農業をこれから始める仲間やアドバイスいただける先輩との関係も作ることができました。まだ手探り状態ではありますが、就農後も関係者の方に栽培方法などを相談し、成長していけるよう、誠心誠意取り組んでいきたいと思っています。

専属スタッフ所感

支援センターは、就農希望者のワンストップ窓口となっています。就農までの準備を丁寧に行うことで、その先の経営安定や発展につながります。

相談者は、いしかわ耕稼塾の様々な研修を経て、就農におけるビジョンが明確化され、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も関係機関と連携を図りながら、引き続きフォローしていきます。



上原氏（就業先の農舎前にて）

概要

◆氏名・所在地

上原 大希氏 福井県坂井市

◆就農年

令和6年4月

◆事業内容

農林高校卒業後、農業法人へ就農。雇用就農先では、水稲、大麦、ソバの栽培に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

家は非農家であるが、農業に興味があり農林高校に入った。高校2年生の時に農業法人でのインターンシップを経験し、就農への意欲を持った。

さらに、高校3年生の時に、「**福井県農業経営・就農支援センター（福井県就農支援センター。以下「支援センター」という。）**」が、高校生を対象に開催した就農相談会に参加し、就農した先輩から生の声を聞くことができ、雇用就農の意志を固めた。

2

相談内容

高校を卒業後、稲作経営を行う県内の農業法人に就農するために、雇用就農先を紹介してほしい。

3

支援内容

●雇用就農先の紹介

支援センターは、求人情報を持つ（公社）ふくい農林水産支援センターと連携し、相談者に適した雇用先（農業法人）を数ヶ所選定し、高校の担任の先生を介して紹介。担任の先生も交えて農業法人と複数回面談した上で、雇用就農先を決定した。

●専門知識等習得への研修紹介

就農後に稲作の専門知識の習得や、各種機械の機械操作・免許取得に向けて、県主催の「越前若狭 田んぼ道場」への参加を促した。同時期に同法人に雇用就農した同年代の同僚と一緒に参加することとなった。



越前若狭 田んぼ道場での研修

●雇用就農先に対する支援

雇用就農先に対し、就農者の適切な育成に取り組んでもらうために、雇用就農資金の活用を勧めた。

また、若い就農者の定着促進のためには、働きやすい環境（適切な休暇・休憩時間の確保、健康管理等）を整えることが重要であると助言を行った。



雇用就農先の社長と話す就農専属スタッフ

今後の意気込み

紹介いただいた農業法人では、社長をはじめ社長のご家族からも、栽培管理などの作業方法について丁寧な指導があり、**同年代の同僚と一緒に切磋琢磨しながら作業することができ** 毎日充実しています。

田んぼ道場で学んだ技術や知識も活かし、免許を取得しながら、より多くの種類の作業がこなせるように頑張りたいです。紹介いただいた支援センターの就農専属スタッフの方とご縁だと感謝しております。

専属スタッフ所感

相談会の際の就農した先輩からの農業に対する良い面と悪い面双方の生の意見を参考にし、それでも就農への意思を固めたと聞き、期待ができると感じました。今回、相談者の希望である経営内容や勤務場所等と農業法人の希望が上手く合致しました。**就農へ導くためには、本人の覚悟と就農先の経営者の受入れ姿勢のマッチングが重要である**と考えております。今後、福井県の若手担い手として、**普及指導センター等と連携しながら、引き続きフォロー**していきます。



いちご新規就農者研修所において研修中の森氏

概要

◆氏名・所在地

森 功一 岐阜県岐阜市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

岐阜県内でいちご農家を志し、JA全農岐阜「いちご新規就農者研修所」にて、生産技術から農業経営に必要な知識を習得できる14ヶ月間の研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

21年間接骨院で院長をしていたが、3年前から何かで起業したいと思った。情報収集する中で農業をやりたいと思うようになった。

そこで、**就農相談から研修、就農、営農定着までワンストップで対応する農業支援窓口「岐阜県農業経営・就農支援センター（ぎふアグリチャレンジ支援センター）（以下「支援センター」という。）**へ相談した。

2

相談内容

いちごで就農を考えている。今後**独立就農して、本格的にいちご栽培を行いたい**。

しかし、農地は所有しておらず、栽培技術の基礎的な知識もないので、就農に向けた栽培技術の習得方法、農地の探し方や活用できる補助金・資金などの制度について知りたい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、**就農までの流れや就農関連イベント、農業の基礎技術を動画で習得できるゼミを紹介した**。

また、県内でのいちご栽培の年間作業や栽培方法の概要を説明し、**技術習得できる研修先や就農準備資金、経営開始資金、認定新規就農者制度等についても説明した**。

また、相談者の意向をふまえ、いちご産地にある**就農候補地に拠点を置きJA全農岐阜が運営する「いちご新規就農者研修所（以下「研修所」という。）**やJAの窓口を紹介した。

その後、研修所の研修生募集に応募され、審査を経て令和6年4月から14ヶ月間の**研修を開始した**。

●関係機関との連携による取組み

研修所において栽培技術や経営管理知識の習得を支援するとともに、研修所と普及指導センターが連携し、必要な農地の確保、施設の設計、補助事業の申請手続き、等の就農準備について一貫してサポートしている。

今後も市町村等と連携して、引き続き就農に向けて支援していく。

●就農市町村の決定

すでに、研修所からの紹介で今後借りることのできる農地の確保に目処が立っており、また地域住民とのつながりも良好であるため、**研修期間了後には地域への円滑な定着が期待できる**。



ぎふアグリチャレンジフェアでの就農相談



いちご新規就農者研修所の研修状況

今後の意気込み

農業に関して何もわからない所から、就農に向けた手順を丁寧に教示いただき、研修所への入所に踏み出す事ができました。

まだ知識・経験不足で手探り状態ではありますが、就農後も成長していけるよう、技術や経営知識の向上に取り組んでいきたいと思ひます。

専属スタッフ所感

支援センターは、ワンストップ農業支援窓口として、就農希望者の相談対応や就農候補市町村等との調整を行っています。相談者が聞きたい内容は、多様化、複雑化しておりますが、関係機関と連携して迅速かつきめ細かく対応しております。

今回の相談者は、就農したい品目や就農したい地域も決まっていたため、栽培技術が習得できる研修先に入れるよう対応しました。



愛西市で就農した成田氏

概要

◆氏名・所在地

成田 俊介 愛知県愛西市

◆就農年

令和6年6月

◆経営規模

イチゴ 0.19ha

◆従業員数

なし

◆事業内容

J A あいち海部の「あまイチゴ組合」に所属し、イチゴの土耕栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

前職では仕事中心の生活だったが、育児休業を取ったときに家族と過ごす時間の大切さを感じた。**ワーク・ライフ・バランスの維持**、自身が自然が好きなことや段取りを考え体を動かすことが好きなことから農家になろうと決心した。県内の果樹産地や、新・農業人フェアなどで他県の情報を収集した。その中で、農業大学校に就農相談窓口がある**愛知県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）**で開催されている就農相談に参加した。

2

相談内容

農業経験がないため、**栽培品目と技術及び基礎知識習得が必要**だったので、どこでどの品目で就農すればよいかわりたかった。

また、**就農のため具体的にどのような準備**をしなければならぬかも相談した。

3

支援内容

●研修先の決定

地元の J A あいち海部あまイチゴ組合にイチゴの研修機関（通称、いちご道場）が設置されることを**支援センター**から情報提供した。また、**相談結果を J A、愛西市、普及指導センターへ引き継ぎ**、関係機関と連携して支援を行った。

●技術・知識の習得に向けた支援

いちご道場の面接を経て、令和4年6月から**2年間のカリキュラムで研修**を行った。1年目は複数の受入農家での実習及び普及指導センターによる座学、2年目は専任農家での実習によって、イチゴの栽培基礎技術と知識を習得した。



経営計画の作成に関する相談対応

●初期投資軽減のための支援

研修初期から**いちご道場が把握した農地、空きハウス・中古機械類の情報を研修生に提供**して、初期投資額をできるだけ抑制するよう就農に向けた支援を行った。

●関係機関との連携による取組

経営計画を検討して青年等就農計画の作成を J A、愛西市、普及指導センターが支援した。また、施設整備に対する補助事業の活用や融資においても関係機関が適切な支援を行い、必要な整備を推進した。研修期間中から J A や普及指導センターが開催するセミナーにも参加を促し、幅広い知識の習得と人脈づくりを行った。



「いちご道場」での農家実習

今後の意気込み

研修等を通じて、受入農家や関係機関から多くの支援を受け、就農までの課題を解決できました。

まだ農業経営は手探り状態ではありますが、「自分で決めたことを、しっかりと取り組んでいく」ために、研修期間中に培った先輩農家の方々や関係機関とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

専属スタッフ所感

支援センターでの情報提供が就農につながり良かったです。ご本人の努力もさることながら、受入農家、J A はじめ関係機関の支援の成果であると思います。新規参入者は産地に新たな刺激をもたらすので、経営発展を期待しています。今後も関係機関と連携した就農・定着支援をします。



農作業に取り組む様子

概要

◆氏名・所在地

坂本 泉 三重県松阪市

◆就農年

令和7年4月

◆事業内容

雇用就農先で水稻の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

岡山県の大学在学時に日本の稲作が抱える様々な問題(高齢化、後継者不足、低所得等)を知り、これを解決したいと思い稲作を志した。卒業後、いくつかの農業法人で働き稲作の技術・経験を積み。最終的に愛知県の大規模農業法人で6年間働き、マネジメントの業務にも携わってきた。独立して、自らが稲作を始めようと考えていたところ、ホームページをみて、「農業経営・就農支援センター(以下「支援センター」という。)」を知った。

2 相談内容

これまでの就農経験から、農業経営や栽培技術に関する知識・経験はあるものの、独立して大規模な稲作経営をめざす上で、**三重県内の平野でまとまった農地を確保することができるのか教えてほしい。また、資金面での具体的なアドバイスがほしい。**

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

三重県で人縁・地縁がない中、すぐに独立して稲作経営を開始することは、初期投資が高額であるうえに、すぐにまとまった農地を見つけることは難しいことを理解してもらい、**優先的な農地の提供と事業化にむけたサポートを行う支援センター主催の「みえ農業ビジネスプランコンテスト」(以下「コンテスト」という。)**に応募するよう提案を行った。

●雇用就農先の紹介

相談者が、コンテストで優秀提案者となったことを受けて、**支援センターと農業改良普及センターが連携して**、相談者に適した事業承継を前提とした雇用先候補を選定し、**相談者を交えて候補の農業法人と複数回面談した上で、雇用就農を決定した**(令和7年4月雇用就農見込)。

●関係機関との連携による取組

農業改良普及センターと連携し、**雇用就農先の農業法人の労務管理等の態勢整備に向けた支援を行うとともに、将来の第三者承継が円滑に進むよう引き続き支援していく。**

また、相談者は雇用就農先の農業法人で栽培技術や農業経営の実践に取り組みつつ、地域での信用が増していくに伴い、経営規模を拡大していくことを目指していることから、必要な都度、農業経営や農地拡大のための支援をしていく予定である。



コンテストのプレゼン審査の様子



コンテストのプレゼン審査の様子

今後の意気込み

紹介いただいた農業法人の社長とは、何度も面談して、事業承継の意向や現状の経営状況等を詳しく説明していただきました。承継候補者として快く受け入れてもらい、夢の実現に向けて応援もするとおっしゃっていただいております。

支援センターの方には親身になってサポートいただき大変感謝しております。

これからが夢の実現に向けてのスタートになりますので、引き続きサポートいただけることを期待しつつ、一步步着実に夢の実現に向けて邁進していきます。

専属スタッフ所感

相談時から、本人の農業経営に対する熱い思いがうかがわれ、これまでの知識と経験も十分である上に農業経営を数字で管理するなど、有望な人材であると思いました。このような人材が三重県で農業を始めたいと思っていただいたことに大変感銘を受けました。

今回、本人の希望が叶うよう、初期投資を抑えつつ、まとまった農地で営農できるような農業法人を見つけることができました。農業法人からも良い人材を紹介してもらったと評価していただいています。今後、三重県の若手担い手として、農業改良普及センターと連携しながら、引き続きフォローしていきます。



経営継承により新規就農した藤井ご夫妻

概要

◆氏名・所在地

藤井 佳彦、藤井 有未 滋賀県東近江市

◆就農年

令和7年1月

◆経営規模

施設野菜（メロン、トマト） 0.2ha

◆従業員数

なし

◆事業内容

産地での第三者継承により、施設野菜（メロン、トマト）の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

就農前は佳彦氏はスポーツ関係、有未氏は農業法人でパート勤務をしていたが、コロナ禍をきっかけに転職を考えるようになった。有未氏が農業法人で勤務していたこともあり、**夫妻で一緒に働ける職業の選択肢として「自営就農」に興味をもった。**

何から始めれば良いかわからなかったが、親戚が滋賀県にいたことから、「しがの農業経営・就農支援センター」（旧 青年農業者等育成センター）主催の「**就業相談フェア**」に参加した。

2 相談内容

「就業相談フェア」に出展していた東近江市のブースにおいて、後継者不足の上岸本温室組合が産地の維持を図るため**新規就農の組合員を募集**しており、農業の継承をサポートする組織「なこーど」がその継承をサポートしているとの紹介を受け、夫妻での移住・就農を前向きに考えるようになった。

県外から移住就農するために必要な生活面や技術面などの支援策について相談したい。

3 支援内容

●「なこーど」での農業継承サポート

「なこーど」では、就農のイメージを具体化させるため、産地訪問を勧め、温室ハウスや選果場などの見学、上岸本温室組合員との交流を継続的に図った。また、お試し移住体験などを経て、空き家バンクや子育て支援策の紹介など、移住・就農が円滑に進むために市の関係部局を横断した柔軟な支援を行った。

就農専属スタッフは「なこーど」メンバーとして、**栽培品目のアドバイスや栽培技術指導など専門知識に基づいた支援を行うとともに、全体のコーディネート**を行った。

●経営継承元とのマッチング

複数回の産地訪問をする中で、**後継者のいない組合員からご夫妻への経営継承をマッチング**した。

継承先の組合員が元県指導農業士であり、研修先として相応しいと判断し、**ご夫妻ともに約2年間の研修を受けた後、経営継承した。**

資金の融資を受けるため、研修期間中から**就農専属スタッフ**が市と連携し、**青年等就農計画の作成支援**を行った。



東近江市愛東湖東地域新規就農促進協議会「なこーど」の支援体制図



栽培管理作業の様子

今後の意気込み

移住や新規就農は不安もありましたが、「なこーど」のサポートを受けて安心して農業を始めることができました。
まだ農業経営は手探り状態ではありますが、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

県外からのご夫妻による移住就農でしたが、就農したい！という強い意志と「なこーど」での手厚い支援により、円滑な経営継承が実現しました。
県内産地では、生産者の高齢化に伴う第三者継承の事例の増加が予想されることから、本事例をモデルの一つとし、支援を行っていきます。



実践農場研修地で田中ご夫妻

概要

◆氏名・所在地

田中 豪・田中 絵美 京都府舞鶴市

◆研修開始年

令和4年8月～(舞鶴市先進農家)
令和6年1月～(実践農場開始)

◆研修内容

京都府農人材育成センターの就農インターンシップ事業を経て、担い手養成実践農場で独立就農を目指して研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

夫の豪氏はサラリーマン（サービス業）、妻の絵美さんはパート従業員をしていたが、農業への思いを募らせていた。話し合いの結果、退職を決意。

漠然と研修先を探すことが必要と考えたが、この時点では、栽培したい作物も定まっておらず、具体的に何から始めたらよいかわからなかったため、京都府農業経営・就農支援センター（京都農林水産業ジョブカフェ、以下「支援センター」）へ相談した。

2

相談内容

農業経験がまったくないため、雇用研修から始めたいが、現在の仕事は退職してでもやりたいと考えている。

技術習得、資金、農地の確保など、就農準備の方法を具体的に知りたい。

3

支援内容

●就農に向けた意思確認と研修先の決定

支援センターでは、一般的な就農の進め方、支援制度などを説明の上、まず、夫婦でもう一度、就農の意思を確認するよう促し、同じ舞鶴市で新規就農し、先進農家として研修生の指導経験もある農業者を紹介。面談の上、アドバイスをもらうよう取り計らった。

主に地域の特産の万願寺甘とうを栽培する先進農家から、まず、早計に現在の仕事を辞めないようにアドバイス。週1日程度の研修に来てはどうかと薦められ、仕事を続けながら、研修をはじめることとなった。

●本格的な研修の開始

先進農家で研修を始めることはできたが、週1日程度の研修で本当に技術が身につく、就農が果たせるのか不安になり、再度、他に就農準備の方法はないか、支援センターに相談した。支援センターでは、就農に向けた意思を確かめる試行期間と考え、しばらく研修を続けること、少しでも資金を蓄えることをアドバイス。

熱心な研修態度が評価され、令和4年10月から、週6日に切り替わり、研修が本格化。さらに令和5年7月から支援センターは雇用研修先に「就農インターンシップ事業」を紹介し、6ヶ月間、研修を支援した。

●関係機関との連携による取組

中丹東農業改良普及センターと舞鶴市、市農業委員会、京都府農業会議、研修を受け入れていた先進農家など関係者が連携し、田中氏の自宅に近い与保呂地域に研修農地と技術指導者、後見人（受入地域と研修生のパイプ役）を確保。京都府独自の制度である「担い手養成実践農場」（就農受入地域が指定する研修用農地で2年間の実践的な研修を行った後、その農地で経営を開始することができる制度）が設置され、令和6年1月から、独立就農に向けた実践的な研修に励んでいる。

関係機関は連携して、独立後も定着と経営発展を支援していく。



府の「担い手養成実践農場」パンフレット

今後の意気込み

農業に関して何もわからない所から、就農に向けた手順を丁寧に教示いただき、一步を踏み出す事ができました。

今思えば、最初に先進農家を紹介していただいたことが、すべてのスタートになりました。今、実践農場でお世話になっている指導者も最初の研修先とつながりのある農業者です。農業をしていく上で人とのつながりの大切さを感じています。今後はハウスの建設など様々な課題がでてきますが、引き続き、先輩方、関係機関の方々のアドバイスを得ながら克服していきたいです。

専属スタッフ所感

先進農家で研修を始められたときは、先行きに不安を感じられたことでしょう。しかし、「ここが辛抱のしどき」とお仕事を続けながら資金づくりに励まれ、圃場では技術習得だけでなく、周辺農家との関係構築など、支援センターを信じ、アドバイスを忠実に実行していただいたことが成功の秘訣だと思っています。研修先を含め、地域の農家の信頼を得ることが何より大切だと知らされる事例です。

地域の関係機関が連携した ワンストップ体制による新規就農支援



繁光氏

概要

- ◆氏名・所在地
繁光 一希 大阪府八尾市
- ◆就農年
令和5年9月
- ◆経営規模
いちご0.1ha 露地野菜0.6ha
- ◆従業員数
パート1名
- ◆事業内容
いちご・露地野菜の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

令和4年から、農業の勉強をするため、勤めていた大阪府の会社を退職し、滋賀県の農業法人にて雇用研修を受けていた。しかし、出身地である大阪府内で就農したいという思いが強く、栽培知識を学ぶだけでなく、大阪府で農業をされている先輩農家や、大阪府庁の職員、また自身と同じくこれから大阪府で就農しようとしている方々との出会いのきっかけにもなると考え、大阪府農業経営・就農支援センターに相談し、府内の就農塾「大阪産(もん)スタートアカデミー」に応募した。

2 相談内容

地元である大阪府で、都市近郊型の観光農園（収穫体験等）の実現をめざし、就農に必要な栽培技術の習得や、支援制度の活用等について相談したい。

3 支援内容

●大阪産（もん）スタートアカデミー

府内での就農をめざし、府とJAグループ大阪が主催する、農業者のもとでの実践的な栽培実習や外部講師等による座学など、**農業経営者としての自立に向けた研修**を実施した。

●関係機関との連携による取組

普及指導センター・市・JAで構成し、ワンストップで就農相談に対応する**八尾市農地保全会議**にて、農地の確保から、貸借の手続き、販路のあっせんに至るまで、**総合的な支援を実施**した。また、地域4Hクラブへの参加を働きかけた。



大阪産（もん）スタートアカデミーの様子

●資金及び機械導入等に係る支援

国の青年等就農資金を活用するとともに、経営発展支援事業により、いちご高設栽培システム等を導入した。また、事業の申請等に当たっては、就農5年目までの計画をまとめた「青年等就農計画」の策定について、**普及指導センターを中心に、関係機関・団体が連携して支援**した。

●生産技術習得に向けた支援

普及指導センター・JAで連携し、地域の特産物であるえだまめを中心に、巡回指導した。いちごについては、府主催の視察研修や環境モニタリング装置設置等によるスマート農業の実践を支援した。



経営発展支援事業により導入した高設栽培システム

今後の意気込み

収穫体験などを通じて、誰でも気軽に農業に触れることができ、農業に興味・関心を持つきっかけになるような農園を目指していきます。

また、私が支援してもらったように農業を始めたいと思った人が安心して農業の研修が受けられるよう雇用研修生を受け入れたいと思っています。

専属スタッフ所感

大阪府でも都市部に近い八尾市を就農地に選び、都市近郊農業の利点を活かした品目に挑戦されているなど、めざす農業経営に向けて着実に準備されたことがスムーズな就農に繋がったと感じます。

今後は生産技術の安定に向けて、普及指導センター等による継続的な支援が必要と考えます。



淡路島たまねぎの生育を観察する脇本氏

概要

◆氏名・所在地

脇本 慎也 兵庫県神戸市

◆就農年

令和6年11月

◆事業内容

雇用就農先で玉ねぎ、ジャガイモの栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

将来的に職業として農業をするためにどうしたらいいのか、どこに相談すればいいのかを探していたところ、兵庫県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）のホームページをみて、「ひょうご就農希望者向けセミナー・相談会」に参加したのが契機となった。

2

相談内容

自然農法の座学、実習の経験はあるものの、職業としての農業経営や栽培技術に関する知識がなかった。農業法人における雇用就農や将来、独立就農するために必要なこと、農業で生計を立てるために必要なこと等を教えてほしい。また、就農についての具体的なアドバイスがほしい。

3

支援内容

●就農に向けて、技術の習得や生活設計について相談対応

すぐに農業経営を開始することは、栽培技術と資金が不足していることから難しいことを理解してもらい、雇用就農しながら、農業経営や栽培技術を学ぶことが現実的であるなど、就農専属スタッフの経験に基づいた適切な情報提供・提案を行った。



ひょうご就農希望者向けセミナー・相談会における相談対応の様子

●雇用就農先の紹介

支援センターが、相談者に適した雇用先を選定及び紹介し、就職予定の農業法人と複数回面談した上で、雇用就農を決定した。

●関係機関との連携による取組

自宅からも比較的近かった農業法人に就職して、栽培技術取得等を行っている。農業経営者として自立することを目指し、日々努力して、独立就農に向けた準備を進めている。



雇用就農先で草刈りに精を出す脇本氏

今後の意気込み

紹介いただいた農業法人では、雇用就農後、独立就農に移行できるように元普及指導員が在席しています。時間管理の重要性について説明を受けたり、機械作業ができるように免許取得を勧めていただいたりしており、ありがたい存在です。また、栽培管理などの作業方法について丁寧な助言もあり、農業経営に対するイメージが明確になりました。

紹介いただいた支援センターの方とのご縁だと感謝しております。

専属スタッフ所感

相談者は精神面と体力面ともに不安を持たれていましたが、着実に技術を習得し、成長されていると感じました。

今回、相談者が希望されていた経営内容や勤務場所等と農業法人の希望が上手く合致しました。就農へ導くためには、インターンシップ研修など短期の研修を活用したマッチングが非常に重要であると考えております。

相談者は農業法人からの評価も高く、今後、関係機関と連携しながら、引き続きフォローしていきます。



イチゴの育苗作業をする小林氏

概要

- ◆氏名・所在地
小林 由布子 奈良県大和郡山市
- ◆就農年
令和7年2月
- ◆経営規模
イチゴ 0.09ha
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
高設イチゴの栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

前職では農業の技術指導や、企業での野菜の栽培管理をしていたが、「子育てと両立できる農業」「障害のある人もない人も働ける場」を作りたいと考え、就農を考えるようになった。そこで、就農希望地を管轄する奈良県農業経営・就農支援センターのサテライト窓口で相談した。

2

相談内容

土地探しや農地を借りるための仕組み、就農認定のための制度、補助金、それらのための具体的な手続きや、就農までのスケジュールについて相談したい。また、引っ越してきて日が浅く、近隣の実情に疎いため、地域の栽培技術や就農のための情報がほしい。

3

支援内容

●関係機関等の連携

就農後のビジョンが明確であり、また、農業技術を習得済みであったことから、早期の就農に向けた市・農地中間管理機構・普及指導員の連携体制を構築した。また、有望な農地が出てきた際に、相談者・市・農地中間管理機構・地権者・水利組合など就農にかかわる関係者が顔を合わせて話をする機会を設けた。

これにより、その後もこまめに連絡を取り合うことが可能となり、関係者間の認識にズレが生じたとき微調整を繰り返すことで、地域でも好印象となり就農がスムーズに進んだ。



栽培指導を受ける様子

●生活面の相談対応

未就学児と小学生の子育て中であるため、「子育てと両立できる規模・作業時間の農業を」と普及指導センターと市担当者が意識し、青年等就農計画の作成をサポートした。

●地域とのつながりの醸成

地域の農業青年クラブを紹介し、農業青年クラブ主催の研修会やクラブ員の圃場見学に参加してもらうことで、地域の生産者とのつながり作りを支援した。地域の生産者とのつながりができてこそ聞ける、地域の気候や直売所に関する情報の収集に繋がった。



就農認定会議の様子

今後の意気込み

就農に向けてこちらの事情を汲んで丁寧なアドバイスを頂けて有難かったです。技術的にも有意義な議論ができ、毎回とても刺激を受けています。

知っていることと実践することの間には大きな差があると思いますが、お世話になった関係機関の皆様の思いに応えられるよう、精進したいと思います。

専属スタッフ所感

相談者は、既に農業技術に関して豊富な知識があり、さらには栽培管理の経験もある方でした。

また、経営の計画を綿密に立てた上で相談に来られたので、子育てとのバランスを考えながら、無理なく営農を続けられることを意識して青年等就農計画の作成を支援しました。

将来的には農福連携も考えられており、地域の農業・社会の発展が期待されます。

今後も伴走支援を通じて引き続きサポートしていきます。



野菜の播種実習中のA氏

概要

◆氏名・所在地

A氏 和歌山県和歌山市

◆研修開始年

令和6年10月

◆研修内容

和歌山県農林大学校就農支援センター（以下「就農支援センター」という。）にて、農業技術や知識の基礎を学べる4カ月のうち全10日間の研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

長年勤める会社の同僚が実家の農作業の手伝いへ行くと、何度か連れて行ってもらったことがあったが、**繰り返し行っているうちに農業に興味が出てきた。**

当初は、定年退職後の就農を考えていたが、**早期に農業の知識と技術を習得し就農するほうが良い**と思うようになり、農業技術や就農支援等について相談できる場所を探していたところ、和歌山県の就農相談会を知った。

2

相談内容

これまで農業は手伝い程度しかしたことがなかったため、和歌山県が主催する**就農相談会に参加**し、「わかやま農業経営・就農支援サポートセンター」の相談ブースにて、農業の技術及び知識が学べる研修機関における就農にあたっての**県等の研修制度、就農支援施策、就農予定地やその周辺での栽培品目**等について、相談した。

3

支援内容

●研修機関等の紹介

県の研修機関として、県内各地の**産地受入協議会**や**就農支援センター**を紹介し、各研修機関で行われているカリキュラムを説明した。

あわせて、就農するにあたっての**県等の支援策**を紹介し、また、就農をする段階では地域の情報が必要となるため、就農が近づいてきた際には改めて市町村へ相談するよう助言した。

●研修機関等の提案

相談内容から、会社勤めをしながら農業に関する知識や技術の基礎を学ぶことができる、就農支援センターの「**ウィークエンド農業塾（第2班）**」を勧めた。

研修は**4か月間**で**全10日**行われ、野菜・花き・果樹の栽培方法や、土壌肥料と施肥管理、病害虫の防除と農薬の安全使用、鳥獣害対策等を**講義と実習形式**で、初歩的な内容を学ぶもの。

相談者の就農の意向や研修と仕事の両立を考慮した上で、申込みの時期や方法等を説明した。



就農相談会での相談ブースの様子



就農支援センターでの研修の様子（A氏と他研修生）

今後の意気込み

就農相談会に参加し、また、「ウィークエンド農業塾」を受講したことで、就農への意欲が増しました！

早期の就農に向けて、本格的な技術や知識を習得するため、来年度はより実践的な研修を受講したいと思います！

専属スタッフ所感

就農相談に来る方は「農業未経験」または「体験程度」が大半ですが、相談者は、ご自身で積極的に情報収集をしながら、就農に向けたイメージを明確に持たれていました。

研修が終了し、来年度開催予定のより実践的な研修を受講される意向があるため、引き続いてフォローをしていきます。



大賀氏

概要

- ◆氏名・所在地
大賀 一 鳥取県米子市
- ◆就農年
令和7年2月
- ◆経営規模
白ねぎ 0.45ha（就農時）（計画2ha）
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
白ねぎ栽培に取り組む

1

就農相談までの背景

前職場は経営者の都合により廃業することになったため、以前から思い描いていた農業を職業にすることを考えた。白ねぎ生産者の友人を見ていて、仕事をした事が自分に返ってくる実感がある事に農業の魅力を感じた。その友人に、就農について相談したところ、鳥取県農業経営・就農支援センター（以下、支援センター）の相談員を紹介された。

2

相談内容

「米子市で白ねぎ栽培を始めたい」と大まかな構想があったため、白ねぎ生産者の友人に農業の話聞いた。しかし、農業を始めるための知識がほとんどなかったことから、技術、知識習得の方法、就農の計画、行政の補助事業について情報を求めた。

3

支援内容

●就農情報の提供と関係機関への情報共有

農業未経験であることから、支援センター発行の新規就農希望者向けパンフレットを基に、農業の基礎から実践までを学べる研修体系や補助事業の情報、就農に向けて支援していく関係機関を紹介した。また、相談者の同意の上で関係機関に就農相談内容を共有した。

●研修機関の紹介

短期間（4ヶ月）で基礎的な知識、技術の習得ができる県立農業大学校アグリチャレンジ科（公共職業訓練）、先進農家の下で1年間、栽培、経営を実践的に学べる（公財）鳥取県農業農村担い手育成機構（以下、機構）のアグリスタート研修受講を勧めた。

大賀氏は計1年4ヶ月の研修により、一通りの経営感覚・技術を身に付けた。

●関係機関との連携による就農に向けた支援

アグリスタート研修中に指導農家や機構が農地の確保の支援を行った。運転資金等の確保や機械、施設整備に県の補助事業を活用するため、事業要件である認定新規就農者の認定取得に向け、普及指導センター、米子市、機構が連携して青年等就農計画の策定を支援した。

指導農家を含めて産地が積極的に受け入れ、大賀氏は晴れて、白ねぎ生産部員として就農した。



指導農家による研修の様子（右側）



アグリスタート研修での集合研修の様子（右から2番目）

今後の意気込み

アグリスタート研修で1年間お世話になった指導農家は高品質な白ねぎを継続して生産し、出荷することを第一に考えておられます。そのことが産地を守る唯一の方法であることも教えて頂きました。私もその思いを大切にコソコソと頑張っていきたいと思っています。

専属スタッフ所感

就農相談時の真摯な姿勢から就農に向けて強い意欲を感じました。農業への転職を選択された事は強い決断が必要だったと思いますが、研修を受けておられる時の姿は生き生きとして楽しそうにしておられたことが印象に残っています。研修は楽ではなかったと思いますが、それを乗り越えて技術、知識を身に付けられて自営就農された事はとても嬉しく思います。就農後も経営発展を支援するとともに良き相談相手でいたいと思います。



西原氏（右）

概要

◆氏名・所在地

西原 宏幸 島根県鹿足郡津和野町

◆研修開始年

令和6年5月

◆研修内容

野菜栽培での就農を希望し、1年間の産業体験（長期研修）に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

長年会社員として主に営業の仕事に携わっていたが、以前より自然に関する仕事がしたいと考えていた。40歳頃から少しずつ情報収集を進め、子どもが大きくなった50代後半に本格的に就農したいと決意した。就農相談イベントに参加し、島根県の市町村ブースで親切に対応してもらったことがきっかけで、島根県での就農を検討するようになった。そこで、県の相談窓口である「島根県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に連絡した。

2

相談内容

島根県での就農を検討しているが、まずは農業体験や農家さんの話を聞きたい。野菜での就農を考えており、どの地域で何の品目が栽培されているか、また就農支援策についても詳しく知りたい。

3

支援内容

●就農相談ツアーでの現地案内

県東部で開催した「就農相談ツアー」で、就農支援策の説明を行い、パプリカやトマト等の産地見学、農作業体験、先輩農家との意見交換などをアテンドした。

就農の具体的なイメージを掴めた一方で、大規模な施設栽培は西原氏の想定していた農業とは異なる部分があったため、継続して就農相談に応じることとした。

●就農専属スタッフによる継続相談対応

メール・電話での就農相談を継続的にを行い、初期投資の少ない露地野菜での就農を希望されたことから、**露地野菜でのIターン者就農実績がある県西部の津和野町を勧め、半農半X（兼業農業）による就農を目指すことを提案した。**

●短期農業体験の実施

支援センターの就農相談窓口を担う(公財)しまね農業振興公社が実施する短期農業体験「しまね農業体験プログラム」を活用し、津和野町での野菜をメインとした農作業体験を設定した。**就農専属スタッフと町担当者が連携して農業体験先の選定、体験時のサポートを行った。**

●研修先の決定

津和野町内で2度農業体験プログラムを実施し、津和野町への移住と就農を決意された。町内の篤農家のもとで、(公財)ふるさと島根定住財団の「UIターンしまね産業体験事業」を活用し、1年間の研修を行っている。



就農相談ツアーにおける農作業体験の様子



栽培指導の様子

今後の意気込み

町の担当者や就農専属スタッフには、就農に向けた資金面、生活面まで様々な相談にのっていただき助かっています。農地も決まり、就農に向けて準備が進んでいますが、楽しみながら全力で農業に取り組んでいきたいと考えています。

専属スタッフ所感

今回の相談者は特に就農の意欲が高く、情報収集を活発に行われる中で支援センターに相談をいただきました。その想いを受け止め、支援センターで相談活動を進めながら、関係機関と連携し、円滑に研修まで導くことができました。今後も就農に向けて引き続き支援を行っていきます。

新見のぶどうに魅せられて、無理のない栽培を

その他（研修）



ぶどうのせん定について指導を受けるI氏

概要

◆氏名・所在地

I 氏 岡山県新見市

◆研修開始年

令和6年10月（農業体験研修）

◆研修内容

ぶどうの収穫や選果作業、地域との交流などを1か月間研修し、就農を決心。令和7年3月から2年間の長期研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

趣味で野菜を栽培し、自然の中での作業や手間暇をかけ努力した結果が反映されることに魅力を感じ、本格的に農業をやってみたいと思うようになった。

岡山県新見市で開催された就農オリエンテーションに参加し、ぶどうに興味を持ち、新規就農者を募集していることを聞き、就農相談窓口になっている「新見農業普及指導センター（以下「普及指導センター」という）へ相談した。

2

相談内容

新見市の新規就農者募集のことを知り、ぶどう（ピオーネ）を本格的に栽培し、生活していける新規就農をめざしたい。

ぶどうの栽培の知識はなく、中山間地域での農村生活がどのようなものかわからないので、具体的な農作業、地域の概要や農家生活、農地や住居の確保について知りたい。

3

支援内容

●研修制度の紹介

普及指導センターでは、就農までのプロセス、1か月間の農業体験研修、2年以内の農業実務研修といった段階的に就農まで進むことができる県独自の研修制度を紹介するとともに、農業体験研修の受入れ先との調整を行った。また、研修中に活用できる就農準備資金、経営開始資金等について説明した。

また、「岡山県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」では、県域を対象とする新規就農セミナーへの参加等を通じて、新規就農者の事例紹介等を行った。

●関係機関との連携による取組

新規就農者の受入れを積極的に進めている新見市、JA晴れの国岡山、阿新ぶどう部会と普及指導センターが密接に連携し、農家での体験の支援、地域の紹介、選果場での体験を実施した。

今後も引き続き就農に向けて支援していく。

●2年間の農業実務研修へ

就農準備資金も活用しながら、令和7年3月から2年間の農業実務研修に進み、当面栽培面積30aを目標に、農地(成園)の確保を支援していく。



就農相談の様子



オリエンテーションでぶどう栽培の説明を受けるI氏

今後の意気込み

一連の作業工程を学ぶとともに、研修中に地域の方々と積極的にコミュニケーションをとって、就農後に成園や空き家を借りられる機会ができるよう努力したいと思います。

当面は1人で就農する計画で、栽培面積30aを目標に省力化を心掛け、無理のない農業経営に取り組みたいと思っています。

専属スタッフ所感

相談者は研修期間中、積極的に学ぶ姿勢で取り組んでおられ、体力面、精神面での問題もなく、イベントを通じた地域の方との交流、先輩農業者との情報交換など、地域に溶け込もうとする姿勢が見られました。

今後も新規就農希望の方がスムーズに就農に向けて進んでいけるよう、普及指導センターや市、JA、生産部会などが連携して対応していきます。



濱寄氏

概要

- ◆氏名・所在地
濱寄 司 広島県東広島市
- ◆研修開始年
令和7年4月
- ◆研修内容
柑橘での自営就農に向け研修に取り組む

1

就農相談までの背景

他県で会社務めをしていたが、親の看護のため帰省し、今後の事を考えていたそのような時、「広島県農業経営・就農支援センター」（以下支援センターという）主催の就農応援フェアを知り、参加したことで、広島県の農業について多くの情報を得ることができ、ぶどうの栽培に興味をもった。行動を起こすにあたり、情報の整理と新たな情報を得るため、支援センターに相談した。

2

相談内容

東広島市でぶどうの観光農園をやりたいが、①どこで栽培技術を学ぶか ②農地の確保はどうすればよいか ③生活するための経営規模などの相談を受けた。
また、ぶどうだけではなく、果樹全般の情報についても情報があればほしいと希望された。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、本人の意向を確認しながら、研修機関の紹介、地元の観光農園、経営指標など就農に向けて参考にしてもらいたい情報を提供した。

相談者が農業体験への参加や積極的に研修機関や先輩農業者を訪問し、情報収集した結果、最初はぶどうの就農を考えていたが、ミカンとレモンでの就農を目指すこととなり、柑橘の研修を実施している J A 広島果実連の研修（宮盛農園）に申込を行い、審査を得て、令和7年4月から研修をスタートすることとなった。

●関係機関との連携による取組

今後は、J A 広島果実連、J A ひろしま、東広島市農林水産課と連携し、栽培技術の習得、園地の確保など協力して支援体制を構築していく

●就農市町村の決定

就農予定地である東広島市には濱寄さんの強い思い入れもあり、農業に関わる知人もおられ、困ったときに相談ができる人間関係を築きながら、2年間の研修後には地域への円滑な定着が期待できる



就農相談の様子



令和6年に開催したフェアの様子

今後の意気込み

支援センターへの就農相談を契機に夢の実現に向け一歩を踏み出し、ここまでたどり着くことが出来ました。今後も携わって頂いた関係者の方々に助けていただきながら1日も早く知識や技術を身に付け、農業で地域に貢献したいと思っています。

専属スタッフ所感

濱寄さんは以前販売関係のお仕事に関わっておられましたが、持ち前の明るさと行動力で周りの人たちを巻き込んでいける人のように思いました。地域にいないくはならない人になっていただけたと思いますので、今後も支援センターとしても後押しをしていく予定です。



就農相談の様子

概要

- ◆氏名・所在地
M. A氏 埼玉県川口市
- ◆就農年
令和7年5月以降予定
- ◆経営規模
未定
- ◆従業員数
未定
- ◆事業内容
施設野菜やイチゴの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

大阪で生まれ育ったが、定年退職を迎える年齢になったことを踏まえ、親の実家がある山口県にUターンし、親とともに農業に取り組みたいという思いが芽生えた。

しかし、自分自身の農業に対する知識や経験が少なく、就農に向けた準備不足と不安を感じたため、新・農業人フェア（令和6年12月）に参加し、「山口県農業経営・就農支援センター」に相談した。

2 相談内容

親の実家がある山口県東部地域（柳井・大島）での就農を考えていたが、農業を始める際に必要となる資金や栽培技術の水準、知識の習得方法などに関する疑問や不安が大きかったため、就農専属スタッフに相談した。

また、自営就農に対する助成・支援制度や求人のある農業法人の情報について知りたい。

3 支援内容

●就農までの流れについての相談対応

就農に対するビジョンが十分に描き切れておらず、農業経営に必要な知識や情報も不足していたが、特に、栽培技術の習得に不安を抱えていることが浮き彫りとなった。

このため、就農専属スタッフから、就農前の体験・研修の重要性を解説し、研修機関等での技術習得を提案した。

●研修機関等の紹介

相談者の様子を踏まえ、栽培技術の習得と座学を一体的に学ぶことができる農業大学の社会人コース（就農支援塾）の概要と参加手続きについて説明した。

●就農・就業に向けた支援メニュー等の紹介

山口県や県内の各市町で実施されている補助事業制度（中古の農業用機械や施設を利活用する事業等）の情報を提供した。

また、県内で開催される産地見学ツアーやガイダンス、セミナーの情報（開催時期、出展者等）を提供するとともに、相談者の就農候補地で農業経営に取り組んでいるベテラン・先輩就農者や農業法人の情報も共有し、積極的に情報収集することで就農イメージを明確にするよう、促した。



就農相談の様子

今後の意気込み

インターネット上で得られる情報だけでは分かりにくいことも多く、実際に窓口に行って相談することでしか得られない情報が多くありました。

農業の知識や栽培経験のない私でも、受講できる研修制度があるのは大変ありがたいと思います。

就農に向けては、まだ手探りの状態ですが、親元の地域住民や役場の担当者などにも相談しながら、無事に農業をスタートさせ、定年後を生き生きと過ごしたいと思います。

専属スタッフ所感

就農相談でお会いするほとんどのの方が、「田舎で農業を始めるのも良いかな」という思いでお越しになるケースが多く、必ずしも、農業で身を立てるという明確な意志がある方ばかりではありません。

私達の業務は、「就農入口」に該当する部分だと思いますが、地方移住やUターン後の就農促進につながるよう、積極的に情報提供していきたいと思います。

今後も、一人でも多くの相談者の方々とお会いし、地域の担い手としてステップアップ頂けるよう、応援します。



栽培指導を受ける井出氏（写真右側）

概要

- ◆氏名・所在地
井出 雅文 徳島県阿南市
- ◆就農年
令和2年11月
- ◆経営規模
露地すだち 1.7ha、シキミ 1ha
- ◆従業員数
常時雇用 2名
- ◆事業内容
露地すだち、シキミ等の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

東京から徳島へUターンを検討していたところ、両親が農家ということもあり、両親が営んできた露地すだち、シキミ経営を引き継ぐことを決めた。
規模拡大を考えて、近隣市町の果樹園も視野に検討していたため、「農業経営・就農支援センター」に相談した。

2 相談内容

両親が営んできた園地の継承に加えて、借地農地を活用し、規模拡大を図りたい。さらに、**規模拡大にともない、雇用環境の改善のために法人化について**などアドバイスいただきたい。

3 支援内容

●関係機関との連携による取組

普及指導センターを通じて、青年等就農資金の活用を促すとともに、今後経営規模を拡大していくための計画作りとして認定新規就農者になるための支援を行った。

●青年等就農計画の作成支援

認定新規就農者になるために阿南市農林水産課や普及指導センターと連携し事業計画の作成を行った。
今後、安定した経営を確立していくため、農業技術の向上、機械化、販路拡大等の取り組みや構想について協議を行った。

●規模拡大に向けた支援

農地情報について、農地中間管理機構のHPを紹介した。また、現地の農業委員会が具体的な情報を把握している旨を説明した。

●法人化に向けた支援

法人化に向けた意見交換や聞き取りを行い。専属スタッフや中小企業診断士から、**資金面や法人設立のタイミング**など、法人化に伴うメリット・デメリットについて説明し、経営の方向性に関する助言を行った。



法人化に向けた相談対応の様子



新植したすだちの園地

今後の意気込み

農業所得向上を目指し、経営規模を拡大するとともに、集落内に雇用の場を創出し、集落の活性化を図り、集落の農地を守りたいです。
今後も、農業経営について、関係者の方々にアドバイスいただきたいです。

専属スタッフ所感

県産のすだちを中山間でなく平地で経営面積を拡大する今後期待できる担い手であり、今後は労働力確保に向けた支援も重要になってくると考えられます。その際に先駆的な農業法人の社長や社会保険労務士を派遣することで安定的労働力の確保に努めていきたいです。



原氏（左）と富野氏（右）

概要

- ◆氏名・所在地
原 純平、富野 明弘 香川県丸亀市
- ◆就農年
令和6年4月（原氏）、令和6年1月（富野氏）
- ◆経営規模
（原氏）ナス 0.2ha、コマツナ 0.3ha、ナバナ 0.2ha等
（富野氏）ナス 0.2ha、コマツナ 0.3ha、ナバナ 0.2ha等
- ◆従業員数
各1名（本人のみ）
- ◆事業内容
ナスを主体とした露地野菜経営に取り組む。

1 就農相談までの背景

原氏と富野氏は学生時代からの友人であり、東京でそれぞれ働いていたが、いつか一緒に仕事がしたいと漠然とした思いを持っていた。原氏はもともと職人に憧れがあり、農業に興味を持ったが何から取り組めばよいか分からなかった。そこで、それぞれの出身地に近い四国を中心に就農地を探そうと、2人で参加した新・農業人フェアで「香川県新規就農・農業経営相談センター」のブースを訪れた。

2 相談内容

移住就農であり、地盤がない土地で農業をするには、多くの農地を集積する必要がある土地利用型経営より、労働集約的な経営の方がよいと、ナスを主体とした経営を開始したいと考えている。

そこで、**香川県の農業や新規就農者への支援等**を知りたい。また、**栽培技術の習得、就農地の選択、農地の取得など就農に向けて準備することが多々あるが、具体的にどう進めればよいか**相談したい。

3 支援内容

●就農相談・研修先の調整

はじめに、就農サポート専属スタッフが「かがわ就農就業マニュアル」等を用い、香川県農業の現状や支援、就農までの流れ等に関する説明を行い、香川県で就農するという決断に至った。

その後、農業経営・就農支援センターのホームページで紹介されている「里親」のもとで一緒に栽培技術等を学びたいとの要望があったが、調整の結果、原氏はJ A 香川県農業インターン制度を活用し里親のもとで、富野氏は里親での研修を終えて独立就農した新規就農者2名のもとでアルバイトという形で研修を行った。

●就農地の決定

里親からの紹介もあり、研修地の近くで農地や作業場を見つけることができ、農地は農地中間管理機構を通して貸借し、就農地を決定した。

●関係機関との連携による取組

当初、二人は共同経営を検討していたが、関係機関との相談会を重ね、検討の末、それぞれ別経営として就農することになった。普及指導センターでは、**就農に向けた情報提供や人とのつながりの支援、市と連携した就農計画作成支援等を実施し**、現在も事業の活用や簿記帳帳等支援を継続している。

地元のナス部会では若手の参入を大歓迎しており、現地研修などの集まりを通して地域のナス農家との交流を深めている。



里親紹介ホームページ



先進農家で研修を受ける様子

今後の意気込み

今後は雇用も導入し、売上で1,500～2,500万円規模に拡大したいと考えています。就農初年目は思ったより売上が高かったですが、2年目の今年は、ビギナーズラックではなかったと証明します。自分から動く周囲の人も協力してくれると実感できました。将来は、同様に新規就農者の助けになればと思っています。ワクワク感を持ち続けて経営していきます。

専属スタッフ所感

新・農業人フェアでの出会いから4か月で就農を決め、香川へ引っ越しという行動力に驚きましたが、その行動力があるからこそ人脈も広がり、就農地も決まり、研修1年で予定どおり就農ということになったのだと思います。

ナス部会や地域の農業者からも貴重な担い手として期待されており、早期に経営を確立できるよう今後も支援を続けていきます。



根来夫妻

概要

◆氏名・所在地

根来 豪 愛媛県松山市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

柑橘栽培での就農を希望し、J A えひめ中央での2年間の長期研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

前職で青果の流通・梱包加工に携わり、食を支える農産物に興味を持つようになった。愛媛県の気候が穏やかで、海・山の自然が豊富なところに魅力を感じた。妻も、愛媛県産のみかんの美味しさに感動し、愛媛県で果樹栽培をしたいと思うようになった。

ネット等で情報収集をする中、愛媛県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）を知り、電話での相談後、大阪で開催された愛媛県就農フェアへ出かけ相談した。

2

相談内容

夫婦で大阪府から愛媛県に移住し、松山市周辺で柑橘栽培を行いたい。

しかし、夫婦揃っての移住への不安、また柑橘栽培についての知識がなかったことから、移住先や就農に向けた栽培技術の習得方法や支援制度等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●就農相談活動

支援センターでは、電話相談のうえ、関係資料を提供した。その後の就農フェアで愛媛県及び愛媛農業の概要、品目別の経営指標、技術習得研修機関や就農準備資金、経営開始資金等について説明した。

また、栽培作物や就農希望地域が定まっていたことから該当地域を管轄する研修機関のJ A えひめ中央新規就農研修センター（以下「研修センター」という。）を紹介した。

その後、研修センターで研修計画作成支援を行い、研修を開始した。

●関係機関との連携による取組

研修センターでは剪定、摘果等の柑橘における基礎的な技術や鳥獣害対策等の習得、地域の優良農家での現地研修を行っている。普及指導センターと連携し、定期的な研修状況の確認や個別相談対応を随時行っている。

また、就農希望地の関係機関と相談し、優良農地や倉庫、住居等の情報提供を行っている。

●就農市町村の決定

研修センターや関係機関からの情報提供により、就農市町村を決定した。今後、地権者との交渉等を支援し、2年間の研修終了後、希望地への円滑な就農を目指す。



大都市での移住・就農相談会



夫婦で柑橘出荷調整の研修

今後の意気込み

柑橘を研修できる研修機関を紹介いただき、夫婦で研修を受けることができました。

愛媛県オリジナルのブランド品種（紅まどんな、甘平、紅プリンセス）等の栽培に挑戦し、愛媛の柑橘をもっと世間に広める一助となるべく尽力します。

就農後は、地域の農業者の皆さまと一緒に地域を盛り上げていきます。

専属スタッフ所感

支援センターでは、直接面談の他、電話やオンラインでの相談を随時受けています。また、県内外での就農相談会等へも出かけ、相談を受けています。

相談者の希望されている移住先と栽培品目に応じ、研修先を紹介しました。

研修後は、スムーズに就農し、農業経営が確立できるように、関係機関と連携して支援していきます。



高見氏

概要

- ◆氏名・所在地
高見 祐 高知県四万十市
- ◆就農年
令和7年2月
- ◆経営規模
施設ピーマン 0.37ha
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
施設ピーマンの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

小さいころから祖父母の農作業の手伝いを行っており、農業に興味を持っていた。高校卒業後は自衛隊に入隊し、その後は航海士として海運会社で働いていたが、農業への興味から、休日を利用して知人の農業の手伝いや農業経営について話を聞くなどの情報収集をしていく中で、本格的に就農を志すようになった。

自己資金だけでは就農は難しいと考え、支援制度についてネットで調べたところ、「農業経営・就農支援センター」を知った。

2 相談内容

情報収集していく中で、農業が簡単なものでないことは理解をしていたが、祖父母が高齢化しており、将来的には祖父母の農業経営も引き継ぎたい。

農業への一定の理解はあるものの、支援制度や就農までの流れが分からない。

また、自己資金だけでは就農は難しいと感じたので、支援制度について相談したい。

3 支援内容

●支援制度や生活面の相談対応

高知県が推進する産地提案書に基づく支援制度を紹介し、はじめに地域を選定することの重要性を伝えた。

自己資金に不安があっては心身ともに安定して就農に向けた研修に取り組めないため、**決して軽い気持ちで研修を始めず、仕事を続けながら、農業への適性を十分に確認する**よう伝えた。

●研修機関等の紹介

就農希望品目がある程度決まっていたため、相談者に適した市町村ごとの研修情報を紹介した。

相談者が県西部に住んでいることから、県西部で希望品目の募集をしている市町村から重点的に相談を進めていくこととなった。

●関係機関との連携による取組

県西部で相談を進めていく中で、四万十市での研修受入れが決まり、四万十市の篤農家の下で実践研修を積むこととなった。支援については、「就農準備資金」を活用することになり、市町村、普及指導センターと連携して、研修状況の確認や就農に向けた総合的なサポートを実施した。

●就農地の決定

市町村での研修受入が決まる段階で、**地域の協力により就農予定の農地にある程度目処がついていた**ため、農地確保の不安を持つことなく、研修に励むことができた。



就農に向けた関係機関との打ち合わせ



実践研修時の収穫作業

今後の意気込み

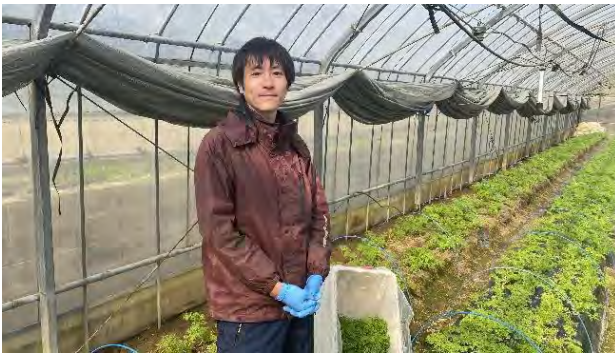
ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行き相談することでしか得られない情報が多くありました。

仕事を続けながら就農への適性を確認することの重要性を教えてもらい、後悔することのないよう立ち止まって考える良い機会となりました。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」又は「体験程度」ですが、相談者は幼少から農業に関わってきたことで、農業の厳しさを理解しており、慎重に情報収集されていました。

就農をサポートする産地の支援体制の充実は重要なことですが、就農希望者自身が自主的に情報収集や研修に取り組むことは必要不可欠なことであり、相談者の意識の高さが円滑な就農につながったと思います。



桑野氏

概要

◆氏名・所在地

桑原 健輔 福岡県福岡市

◆就農年

令和7年4月

◆事業内容

雇用就農先でハーブ、大根等の栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

別産業で働いていたが、小さいころから農業を体験し、もともと興味があった農業に転職することを決断。

将来的に職業として農業をするためにどうしたらいいのか、どこに相談すればいいのかを情報収集していたところ、ホームページをみて、福岡県就農支援センター（以下「支援センター」という。）を知った。

2

相談内容

チームとしてみんなで一緒に頑張りたいという思いから、雇用就農を考えているが、どういった就農先があるのか。また、雇用就農するにあたって今後の動きについてアドバイスが欲しい。

3

支援内容

●農業法人視察会の紹介

雇用就農について具体的にイメージできるように、支援センターが主催する、県内農業法人の視察会を紹介。

実際に参加し、農業現場を見学して、経営についての話を聞くことで、ネットの情報だけではわからなかった雇用就農について、より具体的なイメージを抱いていただけた。

●トライアル就農による取組

県の「雇用就農者トライアル就農支援事業」を活用して、2カ月間お試しで就農を実施。多くの法人のリストの中から、品目や従業員数など、本人の希望にそって、糸島市の先進農業法人を選択した。種まきから収穫までの栽培技術を学びながら、品種の多さや作業工程など、農業について新たな発見や想像とのギャップを感じていただけた。トライアル期間終了後も、同じ先進農業法人にて雇用就農した。



農業法人視察会の様子



ハーブの収穫の様子

今後の意気込み

紹介いただいた農業法人では、**雇用型農業経営を確立した元従業員がおり、身近に好事例**があります。社長から農業経営の考え方や時間管理の重要性について説明を受けたりしてます。また、日頃から先輩従業員の方から、栽培管理などの作業方法について丁寧な指導もあり、農業経営に対するイメージが明確になりつつあるところです。

紹介いただいた支援センターの就農専属スタッフの方とのご縁だと感謝しております。

今後も、栽培技術等を学んでいき、社員の方とコミュニケーションを取り合いながら、作業一つ一つにどういった意味があるのか考え、農業に向き合っていきます。

専属スタッフ所感

相談時から、本人の精神面と体力面とも充実した有望な人材であり、期待ができると感じました。今回、相談者の希望である職場環境等と農業法人の希望が上手く合致しました。**就農へ導くためには、マッチングが非常に重要である**と考えております。

期待通り勤務態度も非常に良く、農業法人からの評価が高いです。今後、福岡県の若手担い手として、**普及指導センターと連携しながら、引き続きフォロー**していきます。



アスパラガスでの就農を目指す尾辻氏

概要

◆氏名・所在地

尾辻 拓斗 佐賀県佐賀市

◆研修開始年

令和6年1月

◆研修内容

アスパラガス栽培での就農を希望し、佐賀市鍋島町にあるトレーニングファームで2年間の研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

自ら考え、実行できる仕事として、農業への転職を志す。アスパラガス栽培は、比較的初期投資も少なく済み、軽量で、単価も安定しており、夫婦で収穫作業ができる品目として着目。

就農に必要な情報を得るため、さが農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）に相談した。

2

相談内容

自身は鹿児島県出身で、物流会社に勤務している。妻とともに山口県に居住しているが、近々、妻の実家のある佐賀県佐賀市に移住し、独立就農してアスパラガス栽培を行いたい。

就農のための研修先、農地確保、支援制度等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●研修先や就農セミナーの紹介

支援センターでは、農地確保や研修先の相談窓口の紹介を行った。また、県内各地で開催されている、アスパラガスに関する就農セミナーを紹介し、参加を勧めた。

●研修先（トレーニングファーム）調整・決定

伴走機関のJAさが、佐賀市役所、佐城農業振興センターなどでは、尾辻氏を対象とした就農相談を重ね、研修先の検討・調整を行った。その後、「佐賀市アスパラ部会トレーニングファーム運営協議会」において、令和6年1月からスタートする第1期の研修生として尾辻氏を決定した。



アスパラガスマニトレーニングファームで研修中の尾辻氏

●関係機関との連携による取組

研修がスタートするまでの期間、同市内でのみかんの収穫やアスパラガス選果業務に従事するなど、農業に対する見識を深める活動にも取り組んでいた。

佐城農業振興センター、JAさが、佐賀市は、購入できる農地情報の提供、また、アスパラガス栽培用ハウスの事業活用について助言するなどし、研修後の就農に向けての準備が着々と整いつつある。

また、同農業振興センターでは、就農後のフォローアップとして、重点的な技術・経営面の助言と指導を行うこととしている。



左からトレーナーの横尾氏、尾辻氏、横尾トレーナーのご子息

今後の意気込み

待望の第一子が生まれ、就農に向けた環境が変わる中、アスパラガス栽培の研修を受けつつ、飲食店のアルバイトを掛け持つなど、忙しい日々を送っている。しかし、それ以上に「今が楽しい」と実感している。

アスパラガスの収量を増やすことだけが目標ではなく、多くの人が佐賀に集まり、アスパラガス生産がもっと盛り上げられたい。SNSの活用や6次産業化にも取り組みたい。インパクトのある「記憶に残る農家」を目指したい。

専属スタッフ所感

トレーニングファームの横尾トレーナーによれば、尾辻氏は就農に向け、熱心かつまじめに研修に取り組んでおられる一方、他の研修生も含め、研修の場をなごませる、ムードメーカー的な存在でいらっしゃるとのこと。

今後、就農後のご本人の経営安定はもとより、トレーナーや関係機関など、支えてくれる周囲の皆さんへの感謝を忘れず、県内のアスパラガス生産の盛り上げに、一役買ってもらうことを期待しています。



田川ご夫婦

概要

- ◆氏名・所在地
田川 純、田川 沙弥香 長崎県大村市
- ◆就農年(就農した年月)
令和6年6月
- ◆経営規模
いちご 8a
- ◆従業員数
家族労働 2名
- ◆事業内容
いちご高設栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

夫婦とも長崎県の実業家出身で、学校卒業後に県外で民間企業に就職。奈良県で結婚し、第一子の誕生を機に純氏の地元（大村市）へのUターンを検討したが、地元には純氏のスキル（化学系）を活かせる勤務先がないため、夫婦で新規就農（自営就農）に取り組むことを決意した。

何から始めれば良いかわからなかったが、長崎県における新規就農に関する支援策や研修制度をネットで調べたところ、「農業経営・就農支援センター（以下、支援センター）という。」（旧：長崎県青年農業者等育成センター）を知り相談した。

2 相談内容

農業に関する知識はほとんどなく、就農の手順、就農支援策、研修制度、農業経営、農地や栽培施設（ハウス）の確保、補助事業などの具体的な情報収集が必要であったため、令和2年度からオンライン等により「支援センター」に相談を行った。

そこで、品目は長崎県の主要品目であるいちごを候補と考え、奈良県のいちご農家で農作業（週1回程度）を経験。併せて、就農に必要な自己準備資金を貯める努力をした。

3 支援内容

・農地利用や生活面の相談対応

いちごを栽培するというだけでは決めていたが、農業未経験ということで農地取得・施設（ハウス）整備のことなど、農業を始める上で必要な情報や研修先の紹介などを専属スタッフが行った。

・研修機関等の紹介

相談者と協議を行い、農業の基礎技術の習得およびいちご栽培を行う上で必要な実践技術習得ができる長崎県技術習得支援研修を受講することを決定した。

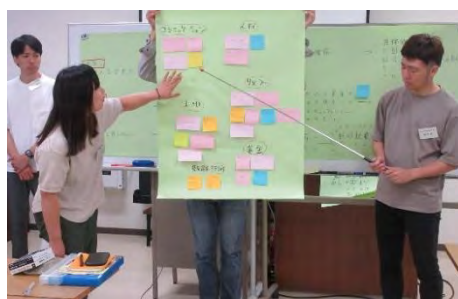
2か月間の基礎研修の後、大村市内のいちご先進農家で10か月間の研修を行い、栽培技術を習得させた。

・関係機関との連携による取組

支援センターと連携している普及指導センターやJANAがさき県央、大村市と一緒に研修中から農地確保、施設（ハウス）整備等の協議を行い、円滑な就農につなげることができた。

・就農市町村の決定

地元である大村市において、21aの農地を借り受け、県や市の補助事業等を活用して、中古ハウス8aを移設し、高設ベンチ、暖房機、炭酸ガス発生装置等の付帯施設も中古品を導入。初期投資を極力抑え、いちご栽培を開始した。



ワークショップで発表する様子



農作業安全研修を受ける様子

今後の意気込み

目標単収6.3t/10aの達成に向け、自身の感覚も磨きながら環境制御技術を活用し、栽培技術の向上を目指します。

また、収入を確保するために早く栽培面積20aまで規模拡大を図っていきます。将来は、家族と過ごす時間を確保しながら思い描く生活を実践していきたいと考えています。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にもつながります。

相談者は就農に関して夫婦でよく話し合い、長期の準備期間を設けて農業体験や自己資金の準備を行うなど、先を見越して取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



施設ピーマンの作業をする大門氏

概要

- ◆氏名・所在地
大門 剛 熊本県宇土市
- ◆就農年
令和4年4月
- ◆経営規模
ピーマン 75a
- ◆従業員数
役員2名、正社員1名、パート・アルバイト3名
- ◆事業内容
施設ピーマンの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

専業農業だった祖父が亡くなり、その後父が兼業で小規模に正月花を生産していたが、あまり手伝いはしなかった。しかし、**もともとモノづくりが大好きで、ある日YouTubeで施設園芸をたまたま見た時に環境制御や現代農業のあり方に一目惚れし、農業に参入しようと決意した。**

何から始めれば良いか分からなかったが、ネットで調べたところ、熊本県農業経営・就農支援センター（旧：熊本県新規就農支援センター、以下「支援センター」という。）を知り相談した。

2 相談内容

今の建設会社を辞めて**本格的に農家を始めたい。どうしても農家になれるか、支援制度、営農計画の立て方等農業を始める上での必要な情報を知りたい。**

3 支援内容

●就農の手順についての相談対応

支援センターのホームページ掲載のパンフに基づき、農業ほぼ未経験ということで**インターンシップ・支援制度・営農計画のことなど、農業を始める上で必要な情報提供**を専属スタッフが行った。その後、関係資料を郵送した。

●研修機関等の紹介

J Aや市町村ごとに相談者に適した研修情報が提供され**地域アドバイザーと相談ができる支援センター主催の冬の「セミナー & 相談会」**を勧めた。

相談会后、専属スタッフから相談者の営農までの研修先となるJ A熊本うきを紹介した。

●関係機関との連携による取組

支援センターと連携しているJ A熊本うきにおいて、**実践的な農業技術や農政にかかる基礎知識、農業経営者としての自立に向けた研修を実施した。**1年の研修受講後、就農することになった。

●株式会社の設立

就農7ヶ月後、「Daimon farm株式会社」を令和4年11月に設立した。

また、施設ピーマンの栽培面積も、当初の40aからも令和7年2月には75aへ規模拡大をしており、今後も経営相談を通じてフォロー行う予定。

※令和7年2月には支援センター主催の「セミナー & 相談会」で新規就農者の事例発表を務める。



県、市及び地域アドバイザーによる現地巡回指導の様子



セミナーの中で事例発表をする大門氏（左）

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口へ何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

株式会社にしましたがまだ農業経営は手探り状態なので、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。短期研修紹介や動向調査、そしてフォローアップ等を行うことで就農のステップアップにもつながります。

また、本県独自の地域アドバイザー制度により行政、J A等の関係機関が一丸になり就農後の巡回指導を行い、技術や経営面での相談対応をしています。

地域の担い手となっていただけるように、今後も現地巡回等を通じて引き続きフォローしていきます。



栽培施設前の井上ご夫妻

概要

- ◆氏名・所在地
井上 哲司・井上 玲音 大分県豊後大野市
- ◆就農年
令和6年2月
- ◆経営規模
ピーマン 0.18ha
- ◆従業員数
家族労働 3名
- ◆事業内容
ピーマンと花きの複合経営を目指す。

1 就農相談までの背景

子供たちが独立したら「農業に携わって生活したい」という夢を持ち、農業をはじめするための情報を集めている中で、豊後大野市のインキュベーションファームをインターネットで見つけた。また、豊後大野市の田舎風景は日本各地を廻っていた時から気に入っていたため、令和3年6月「新・農業人フェア」にオンラインで参加し、その後、おおいた農業経営・就農支援センター（以下、「支援センター」という。）を訪ね、インキュベーションファームの短期研修を紹介してもらった。

2 相談内容

「農業を始める時には軽くて扱いやすい品目」と大まかな構想はあったので、自分なりに営農までの計画を作成するためにネット等を活用して情報を集め始めた。

農業の経験・知識がほとんど無く、技術面や資金面、収入の安定性、農地の取得情報などの専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、**より具体的な営農までの計画や研修内容、生活資金面について相談した。**

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

営農までの計画は相談者なりに作成していたが、農業未経験ということで**農地取得・生活資金面についてなど、農業を始める上で必要な情報を提案するなどの相談対応**を専属スタッフが行った。

●研修先の紹介と実践

相談者が興味を持っていた**市の研修施設の情報を提供。短期期間の体験実習を経た後、入校。**

研修期間中は専任講師から農地情報や農業技術を指導した。

また、市からも研修期間中の宿舎や生活面でのアドバイスをを行った。

●関係機関との連携による取組

就農後はインキュベーションファームを卒業した先輩や支援センターの専属スタッフから専門的な技術の指導を行った。

●就農市町村の決定

ピーマンは灌水施設のある農地が重要。**インキュベーションファームで研修中から市や専任講師から農地情報を提供し、居住地やJAの出荷施設等の条件を加味して決定した。**



インキュベーションファーム（就農研修施設）



ピーマンの選果作業

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行き何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

まだ農業経営は手探り状態ではあるため、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にもつながります。

相談者はご自身でも事前に準備されていたことで、就農におけるビジョンが明確化されており、こちらからのアドバイスに対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



谷口氏

概要

◆氏名・所在地

谷口 浩平 宮崎県日南市

◆研修開始年

令和6年7月

◆研修内容

宮崎県が運営している研修先の「みやざき農業実践塾経営実践コース（1年間）」で、きゅうりでの就農を目指すため、栽培技術や経営知識、農業機械等操作の習得等に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

神奈川県で製造業に携わっていたが、子供が生まれ、食について考えるようになり、自分でも何か作物を作って子供たちに食べさせたいとの思いから、故郷の宮崎県日南市で就農したいと考えるようになった。情報収集をする中、宮崎県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）が開催する就農相談会（みやざき就農“応援”相談会）が令和3年10月に宮崎市で行われることを知り、参加。その後もさらに詳細な相談をするため支援センターに支援を仰いだ。

2

相談内容

日南市で就農したいが、農業経験がないため、研修機関や、農家等で経験を積み、2、3年後に独立自営就農したい。希望作目は、情報収集や様々な品目の農業体験等をする中で、具体的に決めていきたい。そのため、研修受入情報や就農支援制度について具体的に知りたい。

3

支援内容

●相談会や個別相談での情報提供

「みやざき就農“応援”相談会」において、就農専属スタッフから就農に関する情報を提供したほか、日南市や研修受入先と連携して情報提供を行った。また、相談会後も、個別相談等で継続した支援を行った。

●短期農業体験の実施

相談会にて、県の短期研修である「お試し就農」を案内。事業運営先である（株）スーブルと連携し、令和4年1月～3月きゅうりでの体験実施に繋がった。

●関係機関との連携による長期研修の決定

「お試し就農」後は、きゅうり、ピーマン、花き農家でそれぞれ半年～1年の雇用就農をし、農業経験を積みながら、具体的な品目選定と「みやざき農業実践塾」での長期研修を検討。その後、支援センターが実施する「みやざき農業実践塾体験講座」の受講をすすめ、その後長期研修先を決定した。

●研修期間の支援

支援センターと伴走機関が協力して、就農準備資金の申請手続きや研修状況確認など、研修期間中の支援を行っている。



みやざき就農“応援”相談会の様子



研修状況の確認

今後の意気込み

最初のきっかけとなった相談会では、様々な関係機関に相談することができ、一步を踏み出す事ができました。

相談で得た情報を活かし、自分自身でも経験を積み、研修に進むことができました。

これからの宮崎の農業を支える農家として、そして、きゅうり御殿を建てるために、てげがんばっどー！！

専属スタッフ所感

相談者は、具体的な将来像を描けるようになるまで、しっかりと体験をされ、情報収集も積極的に行い、分らないことがあれば、こまめに個別相談を行ってきました。また、研修中も、技術習得に努めながら、就農に向けた準備も、農業用ハウスの確保など着実に進めています。今後も、支援センターは、みやざき農業実践塾や就農予定地の関係機関と連携を図りながら、支援していきます。



北川 慧氏・沙恵子氏

概要

- ◆氏名・所在地
北川 慧・沙恵子 鹿児島県霧島市
- ◆就農年
令和7年4月
- ◆経営規模
露地野菜（生姜等） 65a
- ◆従業員数
家族労働 2名
- ◆事業内容
生姜を中心に、キャベツ等複数品目を組み合わせた経営に取り組む。

1 就農相談までの背景

二人とも非農家出身だが、農業に興味があり、大学卒業後、鹿児島県志布志市の農業法人に就業した。
就業先の農業法人では、作業が分業制で、一つの作物の全ての管理に関わることができず、いずれは独立自営を考えていた。
就業地の志布志市に相談したところ、第三者継承で就農する方法もあることを知り、第三者継承を推進している「かごしま農業経営・就農支援センター」（以下「支援センター」という。）に相談した。

2 相談内容

県外出身で鹿児島県での後ろ盾がないため、ゼロから経営基盤を作って就農することも考えられるが、第三者からの経営継承により、経営基盤を引継ぎ就農することも検討している。県内で移譲希望の農家がいるのか、また、移譲希望先の農家で研修ができるのか教えてほしい。

3 支援内容

●移譲希望農家の選定

支援センターが保有している移譲希望者リストの中から、希望する経営内容について聞き取りを行いながら、露地野菜を経営している移譲希望農家を選定し、移譲希望農家に継承希望者がいることを伝えた。

●移譲希望農家とのマッチング

移譲希望農家と面談し、お互いの考えについて話し合い、継承に向けて、研修を行った。
霧島市や普及指導センターと今後のスケジュールや支援体制について検討しながら、北川夫妻や移譲希望農家と研修内容や各種支援策の活用について話し合いを進めた。

●移譲希望農家での研修

移譲希望農家での実践的な研修を行いながら、基礎知識や経営管理については、普及指導センターが開催する研修に参加するなど、**実践的な農業技術の習得や農業経営者としての自立に向けた研修を実施した。**

●継承に向けた支援

関係機関（市、J A 等）で研修状況を確認しながら、普及指導センターを中心に、就農に向けた営農計画の作成や、継承に向けた話し合いを支援した。
（研修は令和7年3月で終了し、4月に経営継承して就農開始）



継承に向けた話し合い



経営基礎研修



新規就農者励ましの会

今後の意気込み

令和7年4月から就農を開始し、移譲元農家をはじめ、市や県の方々の協力を得ながら経営計画の目標達成に向けて日々営農に取り組んでいます。一つ一つ真摯に取り組み、地域の皆様に応援していただけるような経営を目指します。

専属スタッフ所感

タイミングよく移譲希望農家が見つかり、研修に入るまでスムーズに進めることができました。市やJ A、県のバックアップもあり、安心して研修をすることができたと思います。また、まじめに研修に取り組んでいました。
自分たちの夢（ビジョン）の達成と併せて、移譲された農家の思いを引き継ぎ、地域農業の発展のためにも、頑張っていきたいと思っています。引き続きフォローしていきます。



農業法人代表と高萩氏(右側)

概要

- ◆氏名・所在地
高萩 興 沖縄県沖縄市
- ◆就農年
(自営) 令和7年3月 ※雇用就農令和5年4月
- ◆経営規模
露地野菜(島らっきょう等) 0.21ha
- ◆従業員数
家族労働 1名
- ◆事業内容
島らっきょう栽培等に取り組む。

1 就農相談までの背景

高萩氏は神奈川県出身で、大学進学のために沖縄県へ移住した。卒業後は友人と共に野菜栽培で就農することを計画し、農地や資金、技術がない中で就農方法を探していた。インターネットで「沖縄県農業経営・就農支援センター(以下「支援センター」という。)」の存在を知り、友人と共に支援センターを訪れた。

2 相談内容

野菜栽培で就農するための具体的な手段や雇用就農先について教えてほしい。
また、雇用就農終了後に自営就農したいため、就農地の決定と農地確保について相談したい。

3 支援内容

●就農相談に対する助言等

技術習得の為に沖縄県立農業大学校短期野菜コースを紹介し入学を勧めた。卒業後は、雇用就農先としてハーブ栽培を行っている南城市の農業法人を紹介し、マッチングした。

●沖縄市農林水産課・農業委員会との連携

土地の用途が立ったため、市主催の「沖縄市農地の未来会議」に積極的に参加し、地域計画の農業を担う者に位置づけ予定となっている。また、市農業委員会や農地中間管理機構を介し借地契約を締結調整中である。



沖縄市農業委員会等との面談

●就農市町村の決定と農地確保

自営就農のきっかけとしてU市のレンタル農場(農業ハウス)を予定し、農業法人で技術研鑽してきたが、U市内では他に十分な面積が確保できず申込を辞退、隣市の沖縄市農業委員会に依頼し80aの農地を紹介してもらった。また、遊休農地11aも加えて確保することが出来た。

●中部農業改良普及センターとの連携

専属スタッフと共に訪問し、独立就農後の技術・経営支援と青年等就農計画認定申請のための計画書作成の助言を受けた。



中部農業改良普及センター職員との面談

今後の意気込み

大学卒業後、野菜栽培で友人と共に就農する計画でした。しかし縁故関係の無い土地で具体的な行動に迷っていました。専属スタッフの計画的なきめ細かい助言と支援により、どうにか自営就農の入り口に立つことが出来ました。これからも関係機関と連携を密にし、地域農業の担い手として強い意志と責任感を持って頑張っていきます。

専属スタッフ所感

今回の支援は最初の相談から就農に至るまで足かけ4年間の取組です。相談者は県外出身者のため、農地の確保を含め多くの課題がありましたが、友人と共に就農するという強い意欲と強固な意志を持っていました。技術習得のために1年間の農業大学校の研修と2年間の雇用就農を経ての自営就農者であり、受け入れ地域も担い手として期待しています。今後とも沖縄市や普及センター、JA、農地中間管理機構等と連携を密にして支援していきます。